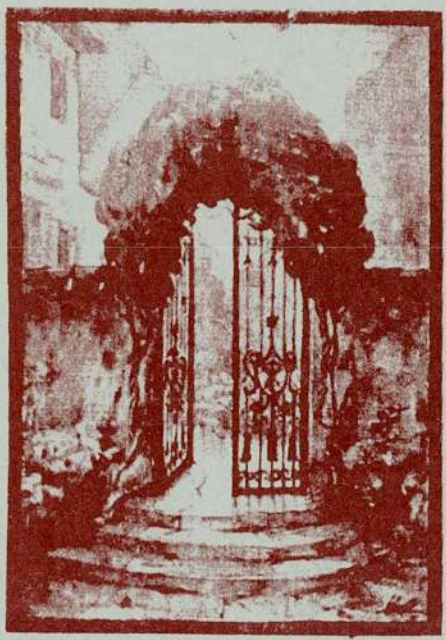
建築ト社會

第五輯　第五号



若葉

大正十一年五月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―堪位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所及附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メタル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ以テ理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ノ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ヲ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トスルコトヲ得

委員長ハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

一　建築ニ關スル重要事項ノ議決

二　建築ニ關スル講演會ノ開催

三　建築ニ關スル展覽會ノ公開

四　建築ニ關スル有志者ノ視察

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル調査研究報告ノ發表

八　理想的建築ノ計畫

九　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十　前各號ノ決議事項ノ實行促進

十一　本會ノ財產ノ管理

十二　本會ノ財產權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六箇月以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

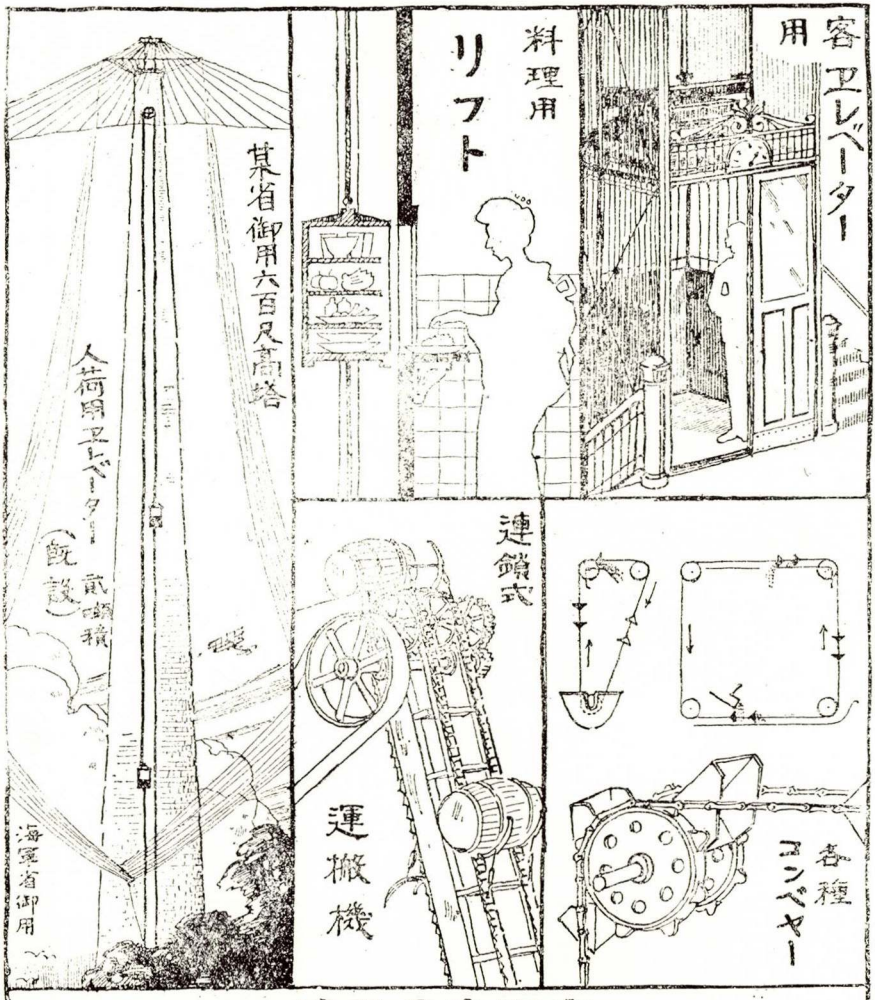
本會ノ財產權債務及每年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及支本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの権威

（専賣特許六件）



大阪東區玉造

㊥日本エレベーター製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第五號目次

▲口繪……（三色版）
○絢爛……（寫眞版）
○日高胖氏の新邸、

〔卷頭〕

○不斷の生命と建築家……

〔論說〕

○都市民の目覺を望む（下）……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
○伯林郊外の發達に關する研究（上）……法學博士　關一……九
○建築物の社會的影響（下）……水口正一……二六
　——權利の社會的行使を論ず——
○建築の理想化と都市に於ける建築物……日本信託銀行取締役頭取　林市藏……二三

〔研究〕

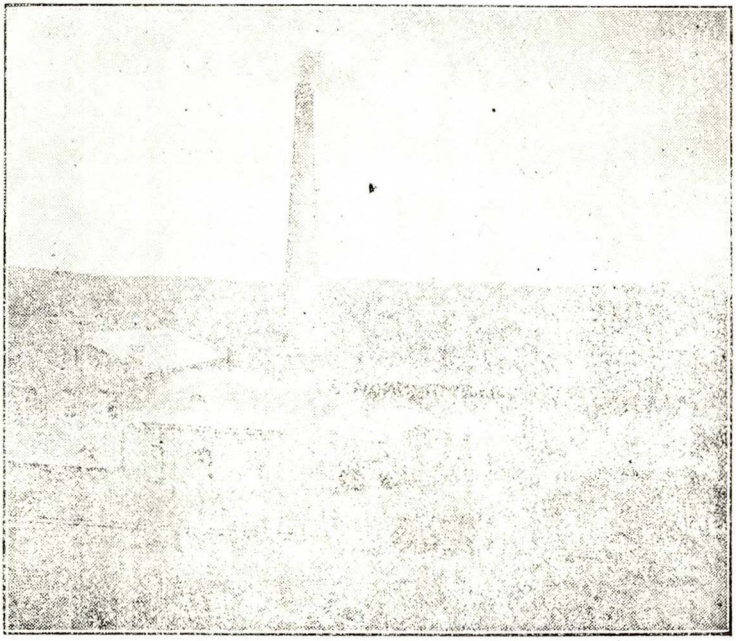
○古代民族心理と建築（二）……山崎萬壽夫……三六

○鐵筋コンクリート 其の日その日(五)……工學士 增田 清……三一
〔都 市〕
○亞米利加の都市計畫(五)……Z Y 生譯……四三
〔住 宅〕
○日高胖氏の新邸……華城閑人……四八
〔資 料〕
○大阪市に於ける細民階級住宅の現狀と保健狀態(上)……三太郎……五八
〔漫 筆〕
○CALIFORNIA雜記……ひろし……六八
○生活の矛盾(感想)……吉村美代子……七七
○和洋兩樣の形式を試みた生活……中井洋紙店重役鵜飼德太郎氏夫人……鵜飼浪江……八〇
□會 報

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明

顧問技師　工學士　雨宮春雄



相談役　前野芳造

營業目課

滿州產

青色大理石、黑色大理石
鹿兒島產白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシユーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

（滿洲工場）

耐火リノリウム

（專賣特許出願中）

鋪床材料
耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑

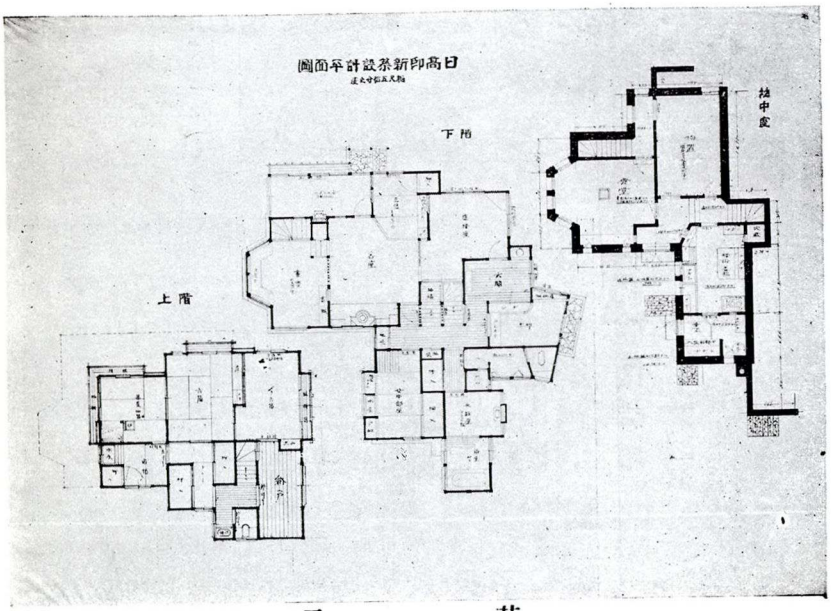
ボースイ（專賣特許）

品質內外品ニ優リ價格低廉
滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區南安治川一丁目十三番地
大阪耐火リノリウム工業合資會社
電話西（營業用）四五九
（長）二五五四
三六三三



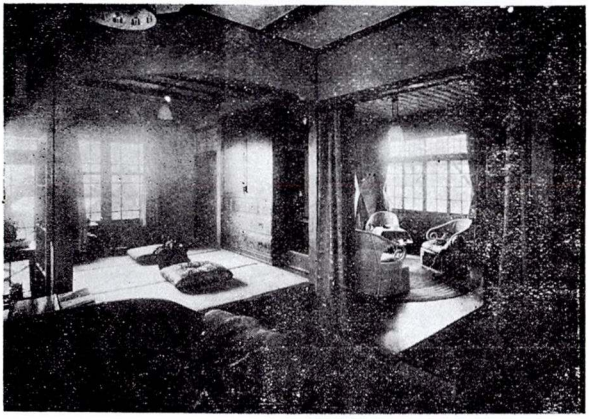
日高胖氏の新邸
（北摂花屋敷山荘）



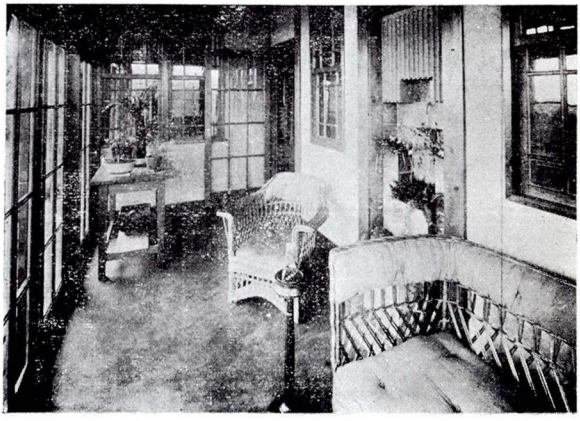
其二



日高胖氏新邸
『居間』の一部（記事參照）



日高胖氏新邸
『應接間』及び『居間』の一部（記事參照）



日高胖氏新邸
『ベランダー』の一部（記事參照）



不斷の生命と建築家

「流動」と「創造」！

何んたる氣持ちのゐゝ云葉ではないか。

「生命」の躍動とは、正に是だッ是だッ。

ほんとうに活々した力の漲る響きだッ！。

「炯爛の春老い逝きて」抔と、感傷な叫び吾れには無要だ。春逝き夏過ぎ秋に物の憐れを愼ふて、嚴冬吾れを刺そうとも、——然り、凡ゆるものが奈何に在り奈何に移り往くとも、吾れには不斷な斯る生命の歡喜あるのみだ！。



論説

都市民の自覺を望む（下）

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

五

我國の大都市に於ける諸般の施設中甚しき時代後れのもので、而も、最も危險性を帶ぶるものは、學校と行政官衙の建築であること、今更呶々するまでもない。見よ、東京大阪その他の大都市に於ける昨今の學校建設の狀態は、殆んど都市の不安を增進すべき方針の下に進みつゝあるのではないかと思はれる。都市計畫法の發布されて已に二年を經たる今日に於ても、其法の精神を覺らず、唯徒らに宏大なる木造建築を人家稠密の中心地に建てゝ、臨時の間に合せ建築物を以て滿足しつゝある市民の心理狀態は何と言つても時代錯誤たるを免かれぬのである。況してそれが燃燒性に富み都市全體に不安を增進するの傾向を有する點に於て、現代文化の裏切りをなすものであるを考ふる時、吾人は唯之を時代の產物として見逃がす譯にはゆかない。殊に昨今の如く普通教育は固より中等程度の教育機關の施設不完全にして

各市町村とも校舎の建物を大に增加せねばならぬ時期に於て、苦しき財政を遣り繰りしながら斯る時代後れの危險性を帶ふる校舎を建築して覺らざるようの狀態は、實に現代を毒するのみならず、子々孫々に對しても甚しき損害を貽すものではないかと思はれる。

最近神戸市に於ては茲に見る處ありて、學校建築は粗末ながら不燃質の鐵筋コンクリート造になすべき方針を立て、其一部は已に實現されたのである。或者は市の財政上木造より外採るべき途なき故に不完全と知りながら不燃質の建物を造ることの不可能なるを說くのであるが、彼等は神戸市の斯の學校建築方針を十分に咀嚼せねばならぬ。神戸市は我國に於ける最も富有な都市であるとも見られぬ。唯斯の點に於て自覺せる市理事者や市民の選良の考案が實現されつゝあるので、他の大都市民の自覺なき態度に先鞭を付けたその自覺は大に稱讃に値すべきものである。我國の行政運用その他一般社會の施設に於ては學校建築の如き實例を擧げる迄もなく、改善の餘地十分あるものも之を現狀維持に事勿れ主義に推移せんとする一般氣風が、凡ての施設に時代後れの事實を曝露すると見るを至當とする。神戸市の學校建築に目醒めたる態度は萬綠叢中紅一點の快感を覺えしめる。吾人は神戸の市理事者が市民と共に斯の尊ぶべき覺醒を回轉期として更に今後都市經營の各方面に一大生面を開かれんことを望まざるを得ない。

六

行政官衙及び公共團體に屬する各種の建築物も亦燃燒性に富むもの多くして、其危險性を帶ぶることの甚しきは敢て學校建築のそれに讓らない。中に就て中央政府に屬するものは本誌に於て已に數次之を評論し、その改善を促したのであるから此處にはそれには觸れないことゝする。抑地方廳及公共團體の經營に係る建築物は、學校以外に、府縣市廳舍を首めとし、病院、警察、各種試驗所、陳列館、市營事業關係施設等凡て市中心地に其位置を占め、都市造營物の模範又は規準たるべき責務を負ふものであつ

て、都市の内容的實質を向上する標的となるものである。歐米各都市に於ては其都市發展の敎導として此等建築物に重きを置くのは蓋し當然である。我國現時の都市は如何に過渡時代の苦しき財政狀態にあるとは言へ、其等建築物の餘りに脆弱にして、都市發展の標的としては餘りに貧弱なるのみならず、燃燒性の危險を帶ぶる爲め市民の生活に常に不安を與へつゝあるのは、什う考へても等閑に附し去るべき事柄ではない。固より例外として已に改善されて現代の文化に副ふべき程度のものも見られぬことはないが、殆んど數ふるに足らぬのである。

以上述べ來りたるところを綜合すれば、我國都市の公共建築物が何れも其理事者の怠慢により斯かる狀態にあるものゝ如くにも考へらるゝけれども、現代の政治運用の妙諦より觀察する時は、幷は唯表面的の事實に過ぎないのである。都市民が其欲するところを明かに表示して少しも違法ならざる法的權利が確立されて居るのみならず、輿論の向ふ處殊に識者の唱ふる處はその表示が不合理のものならざる限り、不完全ながらその實現に進むのであるから、市民の自覺によりて斯る大欠陷は漸次に塡補さるゝは想像するに難くはない。現に建築物法に於ては、內務大臣をして防火地區の制定をなさしめるようになつて居るのであるが、其適用により一刻も早く都市生活の安定を得るべく期望せねばならぬ其主人公たる市民が、平然としてそれ等の問題に馬耳東風の爲體である。內務大臣やその關係當事者の怠慢もさることながら、切實なる要求をなすべき市民の側に於て、平然としてその急要を悟らざる態度が斯る結果の根本的原因であることは疑ふを要せぬのである。詮じ詰めると我國の都市民は未だ經濟生活の眞髓を會得せざるのではないか。その結果その活動に處する眞實の準備を深く考へざることゝなり、防火地區制定の如き問題は、都市の安定生活や市民の文化向上に少しも關係なき事柄と見られるのではないか吾人は其目醒める時を何時までも待つ譯にゆかない。我都市民よ、もう少し眞面目に我都市の不安狀態の實情に着目し、一刻も早くその改善を畫策するの準備に取り掛るべきではないか。

七

上述の如き靜的に見たる我都市の驚くべき不安の半面に、更に動的に見て其處に欠陷の甚しきものあるは或は當然の事であるかも知れぬ。我都市の動的の欠陷の中に就て其改善の急要に迫れるものは言ふまでもなく交通不安と其停滯である。都市生活の動的現象は先づ以て其交通の利便を其基礎とする。交通の便なくしては都市生活の意義は全く零となるのは誰しも氣付かざるはないが、其便利の程度が漸次低下して昨今の狀態に立至り、尙ほも其改善を深く考へざる我市民の態度は甚しき矛盾の心理狀態にあるものと思はれる。そもく進化の順序を享有すべく都市生活を營み乍ら、交通の利便に於て漸次退化せんとする斯の傾向を其儘に見送らんとする思想は、確に矛盾であつて、同時に又無自覺である。

都市に於ける市民の活動及其生活の凡ては、經濟的にも精神的にも交通の利便に支配さるゝは近代都市の一大特徵であつて、其市民密集の度が加はれば加はる程その傾向は濃厚となるようになつて來たのである。都市の膨脹は正さにその傾向と並行してその進展を速め、其進展と累進的比例にその交通の分量が增加して來るのも事實である。そは科學應用の力にもよるが一方經濟組織の緊迫的促進にも因し、又生活樣式の推移にもよるのは勿論である。而して吾人は我都市の實際の事情が凡て斯る近代傾向の潮流に並行して居る事を承認する以上は、現在の我大都市の交通狀態は東京と言はず大阪と言はず其何れもが日に月に窮迫のドン底に進みつゝあるものと考へらるゝのである。その交通量の增加と共にその圓滑自在の程度を低下しつゝある實情は、什う考へても交通利便の退化であつて、聽て行詰まりの窮迫狀態に立到るは想像するに難くはない。

八

街路の鋪裝が漸次改善されつゝあるとは言へ、その殆んど大部分が未だに雨には泥濘靴を沒し、晴れば塵砂濛々として呎尺を辨せざることさへある、先づ大體に於て野路のような街路を脈路として我都市民は其交通をなしつゝある。その不利不便は物質的にも精神的にも可成り大なるものであつて、市民の受くる日々の經濟上の損害は容易ならぬ分量である。或る學者は東京市内物資運搬費の損害を數字的に之を示した。その分量が毎年數百萬圓に上るので一驚を喫する者も、間接なる人事的損害の更に大なるに氣付かぬ者が多いであらう。歐米の都市は、人口數千のものと雖も市内の街路は凡て堅緻なる鋪裝を施し、以て都市生活の基礎を築かざるものはない。近來我東京や大阪に於ても、主要街路の鋪裝をなすべく努力し、その一部は約完備するに至りしも、その遲々たる施工と、保存や清潔の方法當を得ざるものある爲め、鋪裝なき部分も同樣に見られて居るような始末である。從來は工費の嵩む爲めに街路鋪裝は不可能なりと唱へられたけれども、實際はそうではなく、寧ろ市民がその鋪裝の急要なるを感せざる爲に、施工の遲々たるも咎めず、鋪裝せる部分の泥濘寸余に及ぶも顧みず、冷淡に之を取扱ふからであると見るを至當とする。東京市の六間幅以上の街路全部の鋪裝をなすべく決議され、畏くも帝室の御下賜金を頂戴したのは、已に三年以前であるにも拘はらず、其鋪裝の出來上りは上述の通りであつて、その完成には少くとも今後十ケ年以上を要するであらふ。而してその完成の時は古き部分は已に業に大修繕の時期にあるは言ふまでもない。我東京及其の他の大都市の市民は街路鋪裝に要する僅かの工費を支辨し得ざる程の貧しき狀態のものではないのに、その遲々たる工事の有樣は全く街路そのものゝ都市生活に重大なる關係あるを自覺せざるに因るは明かである。

九

市内交通の大動脈としては、我都市民は主として路面軌道の電車に依つて居る。其電車の昨今の混亂

狀態は如何であるか、殆んど行詰まりを通り越して無理算段の運び方である。之を唯一時的の現象と見て寛恕して居る樂觀主義の人もあるが、それ等は問題外として、市民一般には唯其の現狀を不愉快に感ずる位のものである。吾人は斯の點に於ても市民の無自覺の甚しきを感せざるを得ない。抑々大都市に於ける交通機關は其乘客數を增加することをその特徵とするので、我國の現狀の如きはまだ〳〵發展の初期に屬するものと見ねばならぬ。その初期に於ける乘客數の爲めに已に無理算段の運び方をなしつゝある現在の交通機關に就て、その積極的改善策を考へざる如き態度は、什う見ても自覺に鈍き市民と言はねばならぬ。

我東京市に於て市電の運びつゝある乘客數は、近來は一日に百六十萬人を超え、大阪市に於ては毎日平均七十萬人を運ぶの狀態である。斯の乘客數は此儘にて餘り增加せざるものなるやと言ふに決してそうではない。東京市にては其人口より打算すれば人口一人に付き一年三百回乘車するものとして、一ケ年九億の數を得べく、一日約二百四十萬人平均となる。又大阪に於てもその比例にて打算すれば一日平均約百二三十萬人を運ばねばならぬ等である。世界の大都市にては交通機關による乘客數は今や人口一人に付一年三百回に達し或は之を越えて居るのである。我國の大都市も漸次それに接近せんとする傾向あるより見れば、以上の打算は決して架空なものではなく、確實なる推定と見るを至當とする。して見れば、我大都市の路面電車は如何にして斯かる大量の交通量を處理し得るのであるか、此れ蓋し容易ならぬ難問題であつて、市民の冷淡なる苟且主義を容さぬところである。

昨年秋のロンドン、タイムス紙(十月二十一日)は倫敦の交通量が依然としてその增加の徑路を辿りつゝあるその驚くべき狀態を掲げて居る。即ち同市の地下電鐵の乘客は毎日四百萬人を下らず、朝夕群集の際アール、コートを通過する車輛數は一時間八百十六輛を算し、チャーリング、クロスに集中する三地下線路の車輛は一時間千二百十五輛を記錄することさへある。又乘合自動車の通過數は(一時間)チャ

ーリング、クロス……六四〇輛、バンク五六六輛、オックスフォード、サーカス五四二輛、ピッカヂリー、サーカス五一四輛を示し、平日と雖も平均一割二分を減ずる程度である、と報じて居る。又一昨年のセンサスによれば倫敦はその市内三交通機關（地下、路面の電車及乘合自働車）の乘客數を二十三億餘なりと報じて居る。その他紐育、シカゴ等の米國大都市は何れもその交通量を增加しつゝあるので、其對應策は適當に運ばれて居るようである。吾人は斯編に於て我大都市の交通改善に就きての意見を述ぶるの餘白を有せぬから、そは他日に讓り、此處には唯現時の我都市の交通は唯少し許りの部分改善では到底その目的を達し得るものでないことを警告するに止める。

十

以上我都市はその建築物の狀態に於て、又市內交通の現狀及將來に就て甚だ憂ふべきものあるを考察したのであるが、其衛生の狀態は如何、鐵道や港灣の關係は如何、其他市民の敎養を司るべき美術館、研究所、圖書館等の設備は如何、或は社會政策的施設は如何であるか、考ふれば考ふる程各方面とも貧弱なることを發見するのである。而してそれ等の欠陷は如何にして充實さるかを考ふる事が我都市民の最大急務ではあるまいか。その發程は之を政府に求むる譯にもゆかず、市理事者の責任に委すべきものでもない、什うしても市民の自覺により自治的態度を發揮したる其奮鬪的努力に俟つべきものである。我都市民よ、何時までも桃源の夢に耽るは、驕て退化自滅の發程であるを憶ひ、現代文化の新鮮なる空氣を吸ひ、生氣ある積極的態度を以て進むべく結束せねばならぬ時機ではないか。（畢）

伯林郊外の發達に關する研究（上）

法學博士　關　一

緒言

曩に都市計畫法並に市街地建築物法の發布せらるゝや、我國大都市に於て遽に都市の將來に關する計畫を企圖するに至りたるは、都市問題に一新紀元を劃するものであつて、洵に喜ぶ可き現象である。且歐洲大戰の餘波を受けて我國の各都市到る所に住居難の聲喧しく、種々の對策が究研調査せらるゝに至りたるは、我國民が社會問題に就て覺醒した爲であつて、是れ亦大に喜ぶべきことである。併し飜て都市問題住宅問題に關する議論の眞相を窺ひ其内容を檢すれば、餘りに雜駁であり餘りに粗笨である、我國將來の都市計畫の理想は如何なるものであるが、將來の都市住宅の主要なる形態は如何にすべきや、等のことは一向に研究せられずして、徒に都市計畫施行區域の廣濶なるを貴び、建築法規の煩瑣なる適用に汲々として日も亦足らざるの狀あり、甚しきに至ては今日は空中時代である、都市住宅問題の解決の方法は高層建築にありとして米國風のアッパートメントを以て將來我國都市住宅の唯一の形態なるが如く高唱する名士もある、同時に、都市計畫の勃興を口實とし、土地投機を試み詐欺會社を起して私利を營むに汲々たる奸譎の徒もあり我國都市改良の前途も亦殆ひ哉？の感を深からしむるものがある。我々は猶一層深く廣く、眞面目に都市計畫、住宅政策並に土地問題の學術的研究調査の起ることを渴望して已まないものである。

茲に抄錄した伯林郊外の發達に關する研究は伯林大學私講師バウルフォイグト DR. PAUL VOIGT

の GRUNDRENTE UND WOHNUNGSFRAGE IN BERLIN UND SEINEN VORORTEN（伯林及其郊外に於ける地代及住宅問題）中の第四章第五章に據つたものである。原著者フォイグトは一八九六年フランクフルト、アム、マインの Institut für Gemeinwohl（社會學院）が獨逸各都市並に其附近の土地の經濟上の關係に就ての調査をなすに當り、第一に其依囑を受け、伯林及其郊外の調査をした少壯學者である、氏は其以後孜々として此調査に從事し、其一部を纏めて一八九九年の大學私講師就任論文として公にした、此論文は住宅問題に最も早く注目した伯林大學のワグナー敎授が激賞したものである、而して氏は尙ほ此研究を繼續して其大成を期して居つたのであるが、一九〇〇年八月七日不慮の災厄に遭うて瑞西に客死した年齒僅に二十有八、前述の著書は其遺稿として公刊を準備せられた部分丈を整理出版したもので、本書の卷頭に揭げたる『研究材料及方法』の如きも講師就任論文の序文の儘である、從つて其著書も完璧とは云ひ得ないで、伯林市に關する部分の如きは十八世紀末迄の歷史的述に過ぎないで、却而伯林郊外に關し纏つた議論がある、併し此少壯學者の遺業は之が爲に其價値を減ずるとは云へないで、其後に顯れた獨逸都市の地價の研究もフォイグトの學問上の貢獻の光を減ずることが出來ない且つ同氏自身の記した所に依るも此郊外の研究こそ最重要なるものである、氏は曰く、

『純理より見れば、伯林郊外の地代及地價の成立は其形態の多樣なること原因の種々なること等に依りて伯林市內よりも研究を値せずと云ふ能はず、都市地代の成立の如き複雜なる問題の學術的研究に就ては偶然に定められたる市の行政上の區域に調査を限定するが如きは妥當を缺くものであつて、中心より影響を蒙る廣き範圍の調査に依りて凡べての階段則ち最初より最終迄の發展の形態を調査し其比較をなさざるべからず。

又實際より見れば、伯林市內よりも其郊外の研究が遙に重要である、何となれば伯林市內では既に凡ての關係が確定し、地價は驚くべき高價に上りたるを以て、如何なる改革案も關係者の利益を殺ぐの虞

れありて、其頑強なる反對に遭遇すべく到底實行の見込なし、反之市外に於ては地主の利益を減殺することなく、順序立ちに根底ある改革案を廣き範圍に實行し得る、何となれば、此地方に於ては尙ほ大部分が空地であり、且つ地價も市内よりは遙に低位にあるからである』

氏が郊外地の研究を早く纏めた理由は上述の考から起つたもので、就任論文として郊外地の研究を選擇したことで氏の考のある所を窺ふに足る。而して氏の力を注いで研究した伯林郊外地の發達は現時の本邦に採りても頗る重要なる比較研究の材料である。投機熱の流行と地價、土地會社の弊害等を叙述した部分は恰も近來阪神地方に勃興した土地投機熱の狀況を彷彿たらしむるものがある。又建築規程、建築政策、資金供給方等に關する研究は都市計畫に從事せむとする本邦大都市々民の心を潜めて考慮すべき問題に觸れて居る、又交通機關と郊外地の特色の如きも同樣である。

さればフォイグトが二十年來伯林に就て說いた如く我國に於ても實際問題として大都市附近の土地政策は猶順序立ちた根底ある改革案の實行の餘地綽々たるものがある、余が都市計畫住宅政策土地問題に關し學術的研究の重要なることを高調する所以は此實際問題と關聯して居る爲である。

氏の研究方法に就ては本書の卷頭に在る『研究の材料及方法』に詳細を示してゐるが、氏の尤も苦心したのは材料の蒐集である。此材料として三種を區別して居る、第一は印刷物であつて各種の著書は勿論、新聞紙官廳公共團體の報告統計等が其主たるものである、第二は記錄であつて氏は最も之に重きを置いて、大藏大臣及司法大臣に特別の許可を得て租稅及登記に關する記錄を閲覽し伯林市内の二萬五千の建物敷地中約三千、郊外に於て約五百の土地建物に就て各筆毎に十九世紀の始から詳細の變遷（所有者、地價、用途、面積、火災保險價格、賃貸料、抵當に關する事項）を記した原票を作成した、之が爲に六人の助手と一ヶ年半の日子を費したと云ふ、氏は以上の材料に加ふる第三納稅に關係ある官公吏、土地業者、銀行業者、保險業者、建築業者等の專門業者から口頭で意見を集めて參考に供した、されば

氏の遺稿を整理したアンドレア、フォイゲトは氏の書齋に於て、浩翰なる五十冊の重量百基の記錄綴を發見したと云ふ。

我々は斯の如き忠實なる土地問題研究者を有する獨逸學界に尊敬を表することを拒むことは出來ない更に近年の都市に於ける地價の暴騰——最近歸朝した友人の言に從へば世界無比の高價——に驚いてた〻呆然として策の出づる所を知らざるのみならず、學界からも之に關する何等の見るべき研究を有せざる我國を思へば、住宅問題等の解決を近き將來には絶望と云ふも過言でない。此小篇——フォイグトの著書の一部だけを譯した——が幾分にても他山の石たるを得ば幸である。

終りに一言を要するは原著の執筆を終つたのは一八九八年であつたから、此論文中に最近又は現今とあるは凡べて同年頃を指すのであつて、別に改めなかつたことである。

第一章　普佛戰爭後の投機時代並に其以後の沈衰時代

伯林の附近は普佛戰爭の後始めて開發されたのである、即ち伯林が獨逸帝國の首府となつて伯林郊外の最近の發達が始つたのである。此發達は三期に分けて見ることが出來る。第一期は農業地の値段が十倍乃至五十倍に上つた、最も投機熱の盛な時代で千八百七十五年迄續いて居る、同年以後其進歩は徐々となり投機も是と共に全く消滅し地價が幾等か下る氣味になつた時代が來た、之が第二期であつて續いて千八百八十七年より千九百年頃迄の再び新しい投機時代が第三期となつた。

第一節　第一期投機時代

土地投機時代は一八六〇年代の中頃に起原を有して居る、一八六三、四年頃ラッサールの勞働運動の間接の影響を受け住宅問題が起つて來た、此當時英吉利風の一軒建（コッテージ）の家屋制度及英吉利の建築組合を論

じた澤山の著書が現はれた、殊に自由貿易主義のファウフイヤー又は墺地利の經濟學者のサックスの著書の如きは其著しきものである、又種々の集會に於て住宅問題が論議せられ殊に解放的の田舍屋風の住宅制度 LANDHAUSKOLONIEN に贊成する者が多かつのである、併し是と同時に此一般の思潮を自分等の利益の爲めに利用せんとする投機者流が現はれて來て實際の結果は全く豫想外のものとなつた。

一八六六年の獨墺戰爭後ブレスラウの企業家、ベルクマイスター WERKMEISTER はシャルロッテンベルヒの後の高地を買入れて伯林の郊外に第一の別莊建築會社を拵えた、然るにベルクマイスターは其後間もなく死んだから之に續いてハイリンリツヒ、キストルプ HEINRICH QUISTORP が其後を襲つて之を純然たる投機會社となし、且つウエスト、エンド建築會社を設立した、殆ど是と同時に一八六八年春ハンブルヒの相場師カルステン J.A.W. CARSTENN が伯林の郊外リヒテルフエルドに建築會社を建てゝ活動を始めた、氏はギーセンスドルフの廣大なる土地を買込み其外にも伯林の郊外で幾多の土地を買つて、土地會社を設立し普佛戰爭の破裂前に及んだが、戰爭と共に一時會社の設立も中止された。

然るに一八七〇年の普佛戰爭が獨逸の大勝利に終つた後に各方面で非常な土地投機の行はれる時代が始つた、此土地及建築投機は伯林市内よりも伯林の郊外に於て一層著しく行はれた、其方法は個人が投機に從事するのみならず組合 KONSORTIEN 又は株式會社を拵えて土地投機に一般公衆を引入れることを努めたのである。此時代に伯林に起つた株式組織の建築會社は約六十であつて其半分は伯林郊外の土地を目的にして居つたのである。是等の建築會社は總て郊外地に田園都市を開發して住宅問題を解決すると云ふやうな極く世間受の宜い名目の下に起つたのであるが、實際は住宅問題には殆ど何等の効果を齎らさなかつたのである。

其中でも土地投機の奈破翁と言はれたカルステンが最も活動した、氏は前述のリヒテルフエルドに於

て其活動を續けた計りでなく小農の土地を買集めた外にウイメルスドルフの騎士領を取得し約四千モルゲン以上の土地を買入れ、伯林市の約五分の一の面積を占むる土地を經營し、リヒテルフエルドには二つの建築會社を建て、尙續いてフリーデナウに第三の會社をウイルメルスドルフに第四の會社を建てたのである、カルステンは英國に於ける一軒建の家屋制度に關する幾多の經驗を集め、またハンブルヒに於て英吉利風の田園都市の設立に成功した人であつて、伯林に於ける會社の建設も其慧眼と實行的手腕とに依つて相當の成績を收めることが出來た、從つて其後に起つた恐慌の際にも此人の建てた會社は失敗を免れた。

キストルフの設立したウエステンド會社はカルステンの會社の如く成功しなかつた、キストルフは一般公衆の資金を蒐める爲に誇大な廣告を出し、最初の間は稍々成功したのであるが、餘り投機的に事業を行つた爲めに、キストルフの他の事業と共に此會社の破産を見るやうになつた、此外ハンブルヒの商人であり又衆議院議員であつたシエーンSCHOENは、主としてワイセンゼーの騎士領を買入れ勞働者の家屋を建てる爲めに、伯林郊外に新しい會社を建てた、是等の大投機者は主に農民の持つて居る土地よりは騎士領を買ふことを努めた、此騎士領の買入れは普通の農民の土地よりは遙に廉くて、其買入に就ても多數の持主と交涉する必要が無い爲めに、投機者の注目する所となり、テンペルホツフの騎士領も同一の運命に際會した。

前に述べた大投機者の外に、澤山小さな投機者が現はれ、多數の株式會社が設立せられ、伯林附近の殆んど總ての土地を農業地の値段と比較すると十倍、二十倍、三十倍、場合に依ては五十倍の値段で買込んだ、そこで伯林から或る距離の間には殆ど農業地は無くなつてしまつて唯々建築豫備地が有ると云ふやうな有樣になつてしまつて、接近町村の小農は全く此土地に依つて暮らす小資本家と變じてしまつた

是等の投機は勿論伯林の接近町村に於て最も盛に行はれたのである。即ち、シヤルロッテンブルヒ、

ウイルメルスドルフ、シエーネベルヒ、テンペルホツフ、リックスドルフ、リヒテンベルヒフ、リードリッヒスベルグ、ワイセンゼー等に大投機者が活動した、當時、伯林の家賃が段々高くなつた爲に、是等の接近した郊外地に移住する者が著しく增加したのである、併し、接近町村計りで無く投機の最も盛に行はれた時代には、一層遠い郊外地までも投機の目的物になつて來たのである。

是等の投機時代には無謀の計畫が多數に起つたことは云ふ迄もないことであるが、中には伯林附近に相當の見込ある土地を選んだ會社もある、併し是等の會社は凡て將來の發達を豫想して設立したものであつて、其欠點は利用し得べき資本の範圍を超え又實際の需要を顧慮せすして無限に投機を行つたと云ふことである。從て終りには殆ど詐欺に近いような行爲を行ふ要も出來て來た、當時の統計に依れば伯林市內並に附近の土地會社の經營地は九百萬人を容るゝに足ると云ふ樣な有樣で、此統計は稍々誇大に失するの嫌はあるとしても斯の如き事業が到底成功しなことは明白である。勿論其中の或る計畫を多少成功の見込があるとして共倒れは免れぬ運命である。斯の如き無謀な投機の行はれた原因は當時戰爭に勝つて伯林は非常に繁昌になり人口又著しく增加して來た爲めに、此發展を過大に見積り投機を試みる好機會を得た爲めである、且つ此當時尙ほ交通機關が今日のやうな發達をして居らないに拘らず、伯林と郊外との日々の往復の不便又は建築材料の運送困難等は全く度外視せられ、會社の經營は非常の困難に遭遇した譯である。是等の會社の多數は通常建築會社と云ふ名稱の下に設立されたけれとも、殆ど凡べてが土地投機會社であつて、買入れた土地を分割し、道路敷地を定め、其舖裝をなし之を建築敷地として賣つたに過ぎないのである。唯々極く少數の例外の場合に會社が自分で家を建て之を賣却し又は賃貸した。一八七一及七二年に始めた會社又は投機者は主に伯林の接續町村を舞臺として相當の利益を得た、是等な家屋を建てゝ賣却し又は賃貸し又自分で家を建てやうとする人々に此土地を賣つたのである併し伯林及接續町村の此種の建築が盛になるに從つて賃銀、建築材料が非常に騰貴して伯林より相當距

離のある地方に田園都市を設くることは非常に困難になつた又是等の新しい建築が住居に對する必要を相當に補ふことになつて來た後も尙ほ新しい會社が續々と出來て來て、古い會社は總て增資すると云ふやうな有樣で、是等の會社は全く其確實な基礎を失つて純然なる投機となつてしまつた。

是等の會社の中には一般公衆に其株式を賣付けることを目的とした詐欺會社もあり、又當初より到底成功の見込なきものもあり、發起人は事業に依つて利益を得ると云ふことよりは、寧ろ株券の相場に依つて利益を得ることを目的とし、土地投機則ち株式投機であつて事業の成功の見込の無いことを知りながら、株券の値段の釣上のみに腐心して、成るべく早く株券を賣逃げること計りを努めた、併し實際は是等の會社の株券の大部分は公衆の手に渡らなかつた樣である。是等の會社の設立に當つては農民其他の土地所有者の土地を買取る權利を有する投機者が集つて會社を設立し、株式の全部を引受け買取の豫約ある土地を二倍又は三倍の値段で會社に賣付る、此場合に發起人は土地代金の極く一部分げけを現金で拂つて、其殘金は抵當權を設定して前の持主から借金としてある。隨つて新設會社の株券を有利に迅速に賣ると云ふことが發起人に取つて最も必要な事であつて、其の手段として、一株の券面をなるべく少額とし誇大なる廣告及高率の配當等の方法で一般公衆を引入れることを努めた。而して、當時土地會社の性質は一般に十分知られなかつた爲めに、普通株式會社のやうに年々配當すると云ふ制度を採つたのである併し土地會社の利益は其土地を賣却した後に始めて精確に計算さるべきものであつて、年々配當するが如き方法は甚だ不當であるが、土地會社の發起人は此年々の配當といふ方法を以て詐欺的行爲を働く手段とした。則ち會社の配當は極く一部の土地は賣つたものを以て之に當てたのみらず、此賣却も實は設立者自身が買取つたのであると云ふやうな場合もあつた、此場合に無論會社の土地の大部分が尙ほ賣却されない以上は眞正の利益は勘定することが出來ない譯である。併し土地の會社の發起人は此方法を以て驚くべき高率の配當をして、株券の値段を釣上げた、其方法は比較的に確實な會社と認められ

た會社に於ても實行せられ、設立後四割の配當をしたものがある、然るに此配當率は實際に於ては僅に百分の四の配當をしたのであるが、株券の拂込がまだ一部分であること、時期の短い爲めに四割と云ふ計算になるのである。斯樣に種々の方法を用ゐたけれども實際株券の相場はさう高い値段にはならかつた、且つ多數會社は一般の景氣が稍々沈衰せんとする時代に設立せられた爲めに其株は券面金額を超えなかつたものもあつて、是等投機會社の株券の少部分だけが公衆の手に渡つたと云ふ有樣である。

併し景氣の變動と共に一般の損失は決して少くはなかつた。則ち景氣が沈衰すると共に株券の値段の下落は土地會社に於て最も烈しく、是等の土地會社の證券は一片の反古となつて市場から消滅してしまつた。一八七三年頃から幾多の會社は破產し其他の者は引續き數年間に自分で解散し又は破產の宣告を受けた。其直接の原因は所有地に於ける抵當の關係であつた、約三十の會社の中で後に殘つたものは僅かに七つに過ぎなかつた、而して此殘つた會社の株券相場も最も低い時には額面の一割から二割になつて、極盛期の配當金よりも少いと云ふ有樣になつた。是等の解散した會社の土地は廉い値段で個人の投機者の手に移り、場合に依りては發起人又は前所有者たる農民の手に移つた。是等の人々は他日の騰貴を待構へて土地を買入れたのであるが實際に於ては一八八〇年から九〇年頃になつて是等の土地は再び相當の値段で賣却されたと云ふ有樣である、されば伯林に於ては當初英國の建築組合を理想とした狀態は全く實現しないで、却て純然たる資本的土地投機の時代を現出した、伯林郊外の土地の大部分は純然たる相場師の手に移つてしまひ、地主は農耕地を建築地に變することに依つて夢の樣な巨額の利益を得ることが出來るものであると云ふ考を抱くやうになつて、地價に關する觀念は一變して、現在の收益力等は問題とならないで將來建築地となる場合の値段で地價が定まる樣になつた。そこで一八七五年頃からは土地の値段が著しく下つて來て、或る場所に於ては一時殆ど從前の農業地の値段まで下つたものもあるが、土地所有者は再び之を農業地として使ふと云ふ考を起すことなく、何時までも之を建築用地と

して利用すると云ふ考で土地を所有し又賣買すると云ふ習慣を拵へてしまつたのである。

此時代の伯林郊外の土地の値段は其以前の時代に比べて見れば、著しく騰貴したのであるが、今日の値段と比較すれば無論非常に廉いものである、（伯林市内に於ては必ずしも同樣でない）即ち一『モルゲン』（約千坪）は農地として稍高く見積りて三百馬克から六百馬克のもので建築地として今日の時價より餘程低いが三千馬克と評價せられ此二つの値段の間で地價が定まり、別莊又は中下層階級に對する小借家の建築は比較的高値を生ぜしめなかつた。從つて投機時代に於ても田園都市の考が一般を支配して今日の如き大規模の貸長屋を發生せしむるに至らなかつたから、伯林郊外の外觀は餘り變化しないで一般には一軒建の家屋が行はれて今日に於けるが如く兵營式高層建築の貸長屋は見られなかつた。

第二節　第二期沈衰時代

一八七五年から八五年迄の十年間伯林の郊外に於ては餘り變化がなかつた、一八八〇年代の初め迄不景氣が續いて一般事業の利益も減少し賃銀も安い爲めに家賃、地價も下落した、又前の投機時代に計畫されて工事に着手した鐵道が一八七〇年の終から段々出來上つて、多數の郊外町村は伯林と馬車鐵道で聯絡することになつた、それから行政上から見ると七〇年代から八〇年代に互つて、『プロイセン』の制度が改正されて從來の專制國家の遺物は一掃された、其著しいものは一八七二年十二月十三日の郡制及一八九一年七月三日の町村制である、其詳細なことは茲に述べる必要は無いが、唯々建築行政並に建築警察に關することを一言して見やうと思ふ。

自治制の完成と共に總ての行政關機は從來よりも餘計に地方の地主の利害關係の影響を蒙るやうになつた、殊に下級行政機關に於て著しい、市町村並に地方警察吏員又は市町村會、府縣參事會等に於て其實例を見るのである、一八七二年領主の警察權が廢止され『プロイセン』の農制改革の最後の遺物が取除

げられた譯である、此改革は非常に重大なる又必要なるものではあつたが、伯林の郊外に於ては特に利益を齎らしたと云ふことはなかつた、何となれば是迄領主の手に在つた建築警察は非常に熟練した長い經驗を有する吏員の手に依つて執行され伯林附近の街路其他の地方的施設は其賜であつた、然るに此領主警察が廢止されると共に全く事情の分らない地方警察官吏が之に代つた、從つて制度の改正された當初に於ては、技術上の智識も無く又近世の建築行政に對する理解も無く且つ領主の吏員のやうに土地所有關係に基づく利害の觀念も無かつた爲めに、却て建築警察は一時退歩を見たやうな譯であつたから、郊外の地方に於てはただ無意味に伯林市の實例を成るべく詳細に模倣すると云ふことが、警察官吏に取つては最も安全な又最も有利な方法であつた。

又一八二二年定められた市外迄の地域を含んだ伯林警察區域が一八七五年に廢止され、之と同時に伯林もブランデンブルグ州の市町村の組合から獨立した、又一八七二年の郡制の結果として一八七七年にシャルロッテンブルヒは一の獨立した市になつた、猶ほ一八七八年と一八八八年との二回に伯林市の區域が擴張され、此結果として伯林及それより稍々廣い警察區域の人口は一八七五年から一八八〇年の間に不景氣にも拘らず十七萬五千人の增加を見たが、此中で十五萬人は伯林市内に於て增加したものである。

一八七五年――一八八五年の十年間には種々な方面に於て進歩が起つて來た、即ち一般の經濟事情が回復すると共に伯林の交通機關に於ても新しい時代が來た、殊に一八八二年に開通した市内高架線は最も著しい進歩を促した、人口の增加も益々速かになり、建築も盛に行はれ、投機心は再び新に起つて、最も大膽な計畫は其當時に芽ざして次の時代になつて實際に現はれて來た、則ち、後になつて伯林附近の最も大きな又最も成功した土地會社になつた、クワフエールステンダム會社は此當時に設立されたものである。

伯林から稍々遠い郊外も此期間に著しく進歩した、前の投機時代に起つた多くの田園都市 LANDHIA USKOLONIEN は徐々に發達し交通機關の改良と共に其住民も殖えて來た、其處にも此處にも新しい田園都市が成立つたが是等は純然たる投機的計畫に依るもので無く、住居者が殖えて來ると共に自然に起つて來たものである。

一八七〇年代から市民間に階級の對立なる現象の明白となるに從ひ場所に依つて階級を異にすると云ふやうな狀態が現はれて、市内のみでなく、郊外の發達に於ても同樣な現象を認め得ることゝなつた、伯林市内に於ける各方面の相違と同じく西部及西南部の郊外は上流階級の住居となり、東部と北部の郊外は下層階級の住居になつて來た。

此以外に伯林の郊外に著しく人員が增加したわけであつて外觀上一八八五年頃まで餘り著しい變化は認めなかつた。シエーネベルヒ、リックスドルフ、シャルロッテンブルヒ等の伯林に接續した街路を除いて郊外には尙大規模の兵營式貸長屋を見ることが出來なかつた。當時の統計に依つて見ても平屋又二階建の家し大部分を占めて其以上の高い家は極く僅かであつた、又建築の關係上土地の利用が十分で無い爲に、地價も今日の値段に較べれば著しく低くかつた、一八八〇年代の初には尙ほ投機時代より遙かに地價が低廉であつて一八八五年頃には人口が著しく增加し、一般の景氣も恢復し、幾分か土地投機も再現したに拘らず地價は前記の程度迄に回復することが出來なかつた。

斯の如く郊外の建築狀態が餘り變化せず、又それに伴つて地價の安かつたことは其原因に就て十分なる研究を要する面白い事實である。此原因は種々あつて各種の原因の綜合した結果が兵營式長屋の發達を妨げたのである。先づ此原因の第一は當時伯林市内に尙ほ空地が相當に有つて、投機者は郊外地よりも寧ろ伯林市内で投機を試みると云ふやうな有樣であつた、殊に此現象は伯林の北部に於て著しかつた即ち、伯林市内の南部及西南部には餘り空地が無かつた爲めに投機業者は自然郊外に注目した、それか

ら第二に郊外には水道及下水の設備が缺けて居つた、是れが爲めに大規模の貸長屋を建築することが出來なかつた。第三に從來の建築又は住居に關する習慣が大規模の貸長屋を歡迎しなかつた。第四に建築に關する法令が尙ほ從來の建築の樣式を維持せしめた。

以上のやうな理由で一八七一年から一八八五年の間に伯林の近郊の人口が三倍となり或る場所では四倍、五倍となつたに拘らず、今日の如き大規模の兵營式貸長屋は十分に發達を見なかつたのである。

一八八七年迄一八七二年のポツダン州の、農地に對する建築警察令 BAUPOLIZEIORDNUNG FUR DAS PLATTE AND DES REGIERUNGSBEZIRKS POTSDAM が伯林の郊外に行はれて居つた、此警察令は主として防火の目的を以て制定せられたものであつて、衛生警察に關する規定は非常に少なかつた、隨つて建物の高さ又は空地の制限に就ては何等の定めがなかつた、故に是等の事項は一般の規定に依るものであつて、建物の高さは街路の幅員と比例すると云ふに過ぎなかつた、是等の點から見れば當時の建築令は村落の小さな家屋に關係したものであることは明白であつて、特別なる許可の無い限りは一軒建の家屋を原則とし、防火的の屋根の有るものに就ては、建物の間隔を五米突、防火的の屋根の無い建物と防火的の屋根のある建物との間隔は十米突、それから雙方共防助火の設備の無い建物は少くとも二十米突の間隔を置かなければならぬとなつて居た、是等の規定が大規模の貸長屋の建築を促すに非常な不便を與へたと云ふことは明白で、是が爲に兵營式貸長屋の發達を見ることが出來なかつた。唯々シャルロッテンブルヒに於ては特別の許可の下に連續した建物を許した、隨つて兵營式貸長屋の發達を見た譯である。以上述べたやうな事情の下に一八八七年迄は伯林の郊外に少數の例外を除いて兵營式貸長屋の制度が起るべき餘地がなかつた、一家族の住居する小さな獨立家屋が伯林郊外に行はれた建築の樣式であつて、地價も家賃も尙ほ安かつたのである、經濟上並に衛生上利益有る住居狀態を維持すべき小家屋を奬勵する所の警察規定が尙ほ一般に行はれて居つた、尤も此法令を其儘維持して居つたと

しても兵營式貸長屋が小さな家屋を壓倒することを全く豫防することは出來なかつたであらうが、是等の法令に依つて大規模の貸長屋の流行を幾分か遲くすると云ふことは出來たであらう。然るに一八八七年の誤れる建築政策は一擧して從來の法令の根底を破壞し去りて全體の發達を全く異なつた方向に向けて仕舞つた。（未完）（本編は同博士の曩に發表されたるものを許諾によつて掲載せり）

○柴の花や月は東に日は西に

○柴の花に雨の近づくにほひ哉

建築の理想化と都市に於ける建築物

日本信託銀行
取締役
林市藏

――談片を採つて本編を成す、盡さゞる處は責め記者に在り――一記者

◆住宅の、所謂輪奐な美を誇り、或は宏壯雄麗を欲することは、或る特段なる建築を外にして、住宅建築の生命ではない。　多大な工費を投じて、贅澤な建築をなすことも、決して、住宅建築の要諦を得たものではない。所詮は、最も要約された建築、凡ての間取り凡ての設備が、恒に何かの性能を發揮し、それが、居住者の生活にぴッたりと合つて、恒に生活に役立たれてあらねばならぬ。

◆云ひ換ゆれば、從來の日本式建築の様な、生活其ものと餘り緊密な關係のない部屋を拵へてみたり、或は、便利だの趣味だのと云つてみた處で、傳統的な建築様式を基として、我等の便利や趣味性を充たすのでなく、我等の便利や趣味性を充たす爲に建築様式其もの及び設備其ものを創造するに在る。

◆斯くて、創造さるべきものは、何處までも、要約的で、何れの設備も何れの部屋も、恒にそれ〴〵相應に使はれ役立たれ、謂はゞ、各の部屋各の設備が、個々の性能を充分に發揮し得ると同時に、それ等の凡てが、綜合的に一箇の住宅として最もよく均齊に、最もよく審美に、そして、最もよく利便であらねばならぬ。徒に尨大と華美と冗費を用ゆることは、必ずしも住宅としての要件ではない、と想ふ。殊に、中流以下の住宅に於ては、一般に實用的であり、そして亦眞純な趣味性をも有たせねばならぬ、是れ、翻て、居住者の生活を陶冶する手段ともなる。

◆申すまでもなく、住宅其ものゝ構造及設備等は、嫐て、少くとも、其主人の性格や趣味の反映だと見て、先づ大過はあるまい。されば、一年經つても滅多に使はないような部室を拵へたり、徒に宏壯なものを拵へて、其建築を誇り顔なのは、偶々以て其人の品格を窺はれる。

◆それよりも、何處から何處までしっくりと統一のある、そして、部屋と、部屋と、部屋と調度と、階調の整つたものであつて、而も孰れとして無駄のない要約された建築こそ、現代住宅建築としての理想ではあるまいか。

◆日本在來の建築樣式を西洋味に變化する事も、我住宅を理想化するに於ての要件であるには相違ないが、西洋式にしろ日本風にしろ、それ等を通ずる要素は、今云つたような理想化にあらうと想ふ。

◆以上は箇々の建築に就いて述べたのであるが、都市に於ける建築其ものとして觀れば、現在大阪抔の建築に非美術的なものゝ多いのは、聊か齎盛せざるを得ない。

◆勿論、實用といふ事は、何處までも建築の生命ではあるが、さりとて、許す範圍に於いての、建築の美觀——否な單に美觀といふ許でなく、實に建築を美術化する方面をも考へられなければならぬ。

◆我等の生活とても、單に現實を現實としてのみ生活する許りでは、ほんとうな意味に於ける我等の生活の充實といふ事は期せられない。現實を理想化し、云はゞ多少な夢眩化するに於て、其處に潤ひのある奥行きの深い生活を意識し得る。其樣に、建築其ものも、單に宏壯だとか便宜だとかいふような現實化されたのみでは、殊に都市建築として不可である。現實を理想化されたる建築、即ち美術的要素を多分に有つた建築であらねばならぬ。

◆殊に、都市の建築物其ものは、都市民の環境を作り、隨つて、都市民の品性を陶冶するに與つて力がある。勿論、品性上の問題は爾く單純に行くものではないが、少くとも、それに影響を與へる事の決して輕視し得ざるは、爭いなき事實だ、と想ふ。

◆都市を焦燥な場所、單に事務的な境地だとして見るのは、其一面を見ただけな事で、それが必ずしも都市の凡てゞはない。都市は文化の中樞であり、風潮の發生地である事の、恰も低氣壓の發生地境と同樣な事は、今も昔も渝りない事實であるが、近代都市は一層斯の傾向性が著しくなり來つてゐる。

◆隨つて、都市民の品性を陶冶するに於ての一條件として、都市建築は美術的要素を多分に有たなければならぬ、と想ふ。潤ひのない都市、温か味のない都市、只功利一點の都市たるに於ては、都市民により釀成される低氣壓、則ち文化的思想や風潮の奈何に不純にして不健全なものであるかも、略ぼ窺ひ識られ得る。

◆華やかな享樂氣分の爲の美化でなくして、ほんとうに理想化された美術的要素を含める建築は、斯の意味に於て最も必要だ、と自分は信ずる。現在大阪其他の大都市の建築物に、宏莊雄煥なものを見受くれども、ほんとうな美的建築則ち美術的要素を多分に取り入れた建築物は、餘り見受けないように考へられる。蓋し、建築家各位の御所見は什麼ものであらう?。

除ろに急げ

建築物の社會的影響（下）

——權利の社會的行使を論ず——

水口正一

四

余は更に法令上建築物出願に對して許可權を有する府建築課に對し、斯の如き出願に關して其許否を決するが爲めには、宜しく市の住宅政策の現在及將來に鑑み、都市計畫事業の大方針に照し、尙且つ社會的福祉の保護に顧みて、愼重に考慮すべきの要を述べて、十分なる調査を促した、即ち建築課に於ては余の意の存する所を諒とし、直ちに實地調査に着手したところ、出願の許可に先だつて、既に基礎工事に取掛つて居ることが發見せられたので、取締規則違反として即刻右工事の中止を命じて、然る上根本的に許可不許可の研究を進めた。其結果建築課では實質上市の住宅政策、都市計畫事業、並に隣接居住民の公共的福祉の上から觀て、當該建築物の建築が、支障なきものとは云へないが、殘念ながら地域制の確立せざる今日では、市街地建築物法を以ては、之を制限すべき法律的根據かない、斯の如き個人の非社會的自由を適當に制限して、社會公共の福祉を擁護すべき唯一の途は、現在の所大阪府令工場取締規則第八條の

危害を生じ健康を害する虞ありと認むる時は工事設計の變更其他の施設を命じ又は工場の設置を禁止することあるべし

右規定を適用するの外はないと云ふので、而して同取締規則の運用は、工場課の所管事務であるから、

當該出願案件は、直に工場課に對して合議することゝなつた。茲に於て余は工場課長安達君を訪うて、豫て建築課に對して爲したると同樣の注意を促して、愼重の調査並に研究を要望すること二度に及んだ而して之に對する安達君の答辯は大要實に左の如きものであつた。

府令工場取締規則は原則として屆出主義であるから、建築物の出願があつた場合は之を拒否することは出來ない、同規則中第八條（前揭參照）の制限の如きは枝葉の規定で取るに足らない、何處迄も原則に從つて處斷しなければならぬ、又都市計畫大阪地方委員會に於て都市計畫の地域制が何う決定したかは知らぬが、僕は委員でないから左樣のことには一切關係がない、工業地域であらうがそうでなからうが、府下に於て工場を建築せんとする出願は、僕の自ら信ずる所に從つて處斷するのみである、殊に市の住宅政策がどうであらうと、そんなことを毫も考慮に入れる必要と責任とを感じない、のみならず工業の發展は國家の利益であり且つ市の發展である、それと同時に新たに工場が出來れば其處に多數の從業者が集り、附近の商店の如き依て利する所が多いではないか、更に又該工場が如何に厭ふべき音響を發するか、如何に不衞生的な煤煙を吐くかは、工場建築落成後作業に着手した上でなければ、猶未知數であると云はねばならぬ、工場落成後假令非衞生的の音響を發し煤煙を吐くとしてもこれは仕方がないことである、元來營業は自由であるから。

安達君が傲然として余等新聞記者團に對して述べ立てたる意見は大體以上の如くであつた、而して其席に於て余は、斯の如き安達君の誤れる意見に對し之を是正し、重ねて同君の注意と反省を促す爲めに大要左の述く述べた。

目下大阪府市共に主力を傾注してゐる都市計畫事業は、これは都市の綜合的發展を所期し而して市民の綜合的福利を增進する仕事であるから、市民は其職業の如何階級の如何を問はず、都市計畫事業に對しては之を尊重するのみならず、進んで之を助勢しなければならぬ責任を持つてゐる、徒らに工業

のみに眩惑されて、地域制の實施を阻害し延いて都市計畫事業に障碍を與へる様なことがあつては以ての外である、又工業の經營者たる少數の資本家を擁護し且つ之を利せしむることが、決して直ちに國家を富ます所以でないことは今更呶々する迄もない、又工場の建築後作業着手の上でなければ、音響煤煙等の隣地に與ふる影響は未知數だと云ふも、凡そ建築せられんとする工場の規模の大小、設計の模様、工業の種類及性質隣地との距離等より推して、大體如何なる程度の影響を及ぼすか位の豫見の出來ない筈はない、斯の如き容易なる豫見をすら怠り後日實害の發生するを待つて初めて對應の處置を爲さんとするが如きは、行政々策として詢に愚の至りである　殊に注意すべきは市内殷盛の場所で人家櫛比の間に漸く狹少の敷地を求めて工場を建てんとする場合と、芦荻徒らに生ひ茂れる埋立地で、一廓を爲せる住宅區域に强ひて割り込まなくとも、綽々として敷地餘裕多き場所に於ける工場の建築とは自ら其性質が異つてゐる、而も況んや市營住宅として社會施設の模範として、中外に誇りつゝある場所に於てをや、成程工場取締規則は屆出主義が原則かも知れぬ、然しながら第八條の制限規定は、正しく個人的自由と、社會的公共的福祉との調和し難い場合を豫想して、斯の如き場合は須く個人的自由を適當に制限し、以て社會的公共的福祉の保護を行ふべき權利を、當局者の手に留保したもので、一種の社會政策的意味を有する規定である、而して今日の時代は個人的自由を（即ち私有財産權を）絶對とする思想に基礎を置いた屆出主義の原則に據ることよりも、寧ろ個人的自由を制限しても社會的福祉を活かすべき第八條の如き規定を重大視すべきことが必然の歸趨である。

五

余は諒々として說いたけれども、安達君は毫も余の言に聽かうとはしないで、その暴論を頑强に固持して恬然として顧みなかつた。

夫れ所有權は法令の制限内に於て物の使用收益處分を爲し得るの力である。大阪市が其所有より土地を他人に賃貸することは勿論自由であり。當該賃貸借契約に依て賃借したる者が、其契約の内容に從つて其土地を使用することも亦自由である。從つて其土地に如何なる工場を建築することも自由であり、其建築されたる工場を如何に使用するも自由であらう。然しながら是等の自由は皆形式的には法令の制限内に於てゝあり、實質的には社會的福祉と調和し得る範圍内に於てゝある。蓋し所有權其他一切の私有財產權存立の社會的根據は、常に時代と共に推移するものであつて、時代を超越しては、決して其存立の意義を見出すことは出來ない。即ち當該の社會に於ける一般的信念並に一般的理想に鑑み、如何にせば社會一般的理想に鑑み、如何にせば社會一般の福祉に適合調和して之に違背することなきを得るかを常に目標として決せらるゝものに外ならない。今や資本主義爛熟の社會的歸趨と、民主的平等思想の彌蔓の結果は、私有財產權に對する、十八世紀以來の絕對排他的乃至絕對自由觀念から著しく轉化し來つて、本來法律が私有財產制度を創設したる所以の社會的意義を、充分に顯現し且つ發揮し、社會全員の爲に社會の安寧を維持し其福祉を增進すべき必要の前には、時ありてか私有財產權に制限を加ふべきを至當なりとする觀念が、何の疑ひもなく社會的承認を受くるに至り、所謂權利の社會的行使乃至權利の社會化が高調さるゝことゝなつた。

從つて是迄の立法が私有財產をのみ確保するに專らであつたのに對して、今後の立法は此の新らしき觀念に基いて、私有財產權と公共的社會的福祉との調和を圖るべきことを主眼とせらるゝようになつて來たのである。是をこれ思はずして時勢の推移の前に目をつむり私有財產權存立の社會的根據を辨せず今後の立法を支配すべき新精神の諒解なくして、依然として十八世紀以來の絕對排他的の觀念を以て、權利の行使を認容し且つ進んで之を保護せんとするか如きは余の最も諒解に苦しむ所であり、苟も社會の實相を直視して透徹明快の判斷を下し、法の運用を適正ならしむべき責任ある行政官にして尙斯の如

しとすれば、其官吏の主張に基いて行はれたる行政行爲は、到底適實にして合法なりと云ふことは出來ぬ適實合法ならざる行政行爲に對し、焉ぞ國民的信賴を繋ぎ立憲的服從を期待することが出來ようぞ余は切に國家の爲に之を惜む。（完）

附言、本稿起稿中余は當該問題に就て池松知事及び藤沼警察部長に懇談の結果、殆んど余の主張に適合するに近き、社會的福祉の保護を主眼とする重大なる條件を附して、建築物の建築を許可することになれるを知つた、此上は其條件が嚴正に遵守せらるゝか否かを監視したいと思ふ。

花に寢て月におどろく木蔭哉

鐵筋コンクリート其の日その日（五）

會化　工學士　增田清

（三）コンクリートと鐵とのボンドの續き

（御斷り）　前號に於て、私は協會の講演の準備をする爲めに、この稿が稍、遲れたので、頁數もいつもより少く、おまけに三十頁と三十一頁とが逆に印刷されて居たのを發見しました、何とも恐縮な次第です。

（七）凍結の影響　エブラムス敎授の試驗の結果に依りますと、寒い日に屋外で造つた試驗片ではセメントが凝固する際に幾度も凍つては解けた故か、殆んどボンドの强さに缺けて居たといふ事です。是れで冬期、コンクリートを打つのは餘程の注意を要する事が分りませう。

（八）抗壓の强さとボンドの强さとの比例　八吋に十六吋の圓壔形のブロックで試驗しますと、滑り始めの時のボンドの强さは抗壓の强さの一割三分で、最大の時には一割九分に達します、この時の材齡は短いもので二日から、長いので二年半後に試驗をし、用ひた調合は一・一・二から一・五・一〇でありました。外の人の試驗の結果も是のエブラムス氏のものとよく一致して居ます。

（九）異型筋　異型筋を用ひて試驗をしても、滑り始めは普通の丸鋼と殆んど差のない應力の時に起ります、しかし、滑り始めると、其の表面の凸部が滑りつゞけぬ樣に邪魔をします、この突起の爲めに生ずる摩擦抵抗を除いて其他のもので考へますと、滑り出しの處が大きくなつた時のコンクリートの抵抗は、頗る大なるもので、時とすると接觸面積の一平方吋に對して一萬四千ポンドに達しました。これで抽き拔き試驗に於て、ブロックが裂けるといふ事が分ります。

最大の應力といふものは、大きい滑りが起る樣になつて初めて生ずるものですから、實際の構造に於ては其處迄を利用するといふ譯には參りませ

ぬ、只僅かの滑りを生ずる位で止めなければなりません。從つて、ボンドの實際用ひうる抵抗は終極の抵抗を標準とせずに、滑脫が百分の一吋を超過せぬ程度の應力を基とすべきであります。しかしながら、この滑脫を基とした異型筋に對する安全係數は終極のボンドの強さが大きく、又、機械的のボンドの存在する爲めに、實際の破壞が少ないと云ふ事から、丸鋼に於けるよりも小さく取る事が出來ます、是れは割合に新しいコンクリートに大きい荷重をかけると云ふ樣な時に大事な、役に立つ事であります。

(十)ボンドの應力　丸鋼では八十ポンドにとり異型筋ではこれを百ポンドから百二十ポンドとします。

梁に於けるボンドの應力

梁に於ける最大のボンドの應力は最大の剪力の部分に起ります。普通の等布荷重では此の最大の應力は支點に於て起り、梁の中央に近づくに從つて一樣に減少して零となります。三分の一の點に荷の集中して居る梁では、最大の應力は外の三分の一の部分に起り、中央の三分の一の部分では零であります。但し、此の場合には無論、梁の自重の影響は考へて居ないのです。

ボンド試驗の際に生ずる現象、梁に起るボンドの應力は鐵筋の應力の增加即、一點から次の點に移る應力の變化に依つて生じます。この鐵の應力の變化即、增加は曲げのモーメントの增加の値に比例するので、從つて垂直剪力に比例する譯であります。

しかし、實際に於ては、鐵筋の應力の變化は、コンクリートが幾分の張力に堪へるといふ事の爲めに、影響をうけるもので、此の應張力の大さと其れの全張力に對する割合は梁の各部に於て異るものであります。即、應張力の大さの最大なる點の近傍に於ては、コンクリートが龜裂を生じますから、此の影響は小になり、支點の近傍に於けるが如く、最大の荷重をうける場合にも、コンクリートが多くの張力に堪へ得る樣な部分では、其の影響も大きくなります。鐵筋の應力の增加は剪力

に正比例しませんから、この增加に依つて生するポンドの應力の增加も、剪力には正比例はしないのであります。

エブラムス教授は三分の一點に集中荷重を有する梁に於て、荷重を漸次增大すると共に、梁の各部に生ずるポンドの應力を精密に測定した結果を千九百十三年に發表されました。此の梁に於ては、前に述べた樣に支點と三分の一點即、荷重のかゝる點との間では剪力の變化はありませんから、是れを基礎として計算したポンドの應力も亦、一定不變である可き譯です。しかるに、實際測定の結果では、支點の所のポンドの應力は荷重のかゝる點即、三分の一點の直、外の所に於けるものよりも少ないが、重荷を漸次增大して、鐵筋が彈性限度に達すると共に、樣子が變つて、此の兩方の箇所のポンドの應力が一樣なものになるのを見ました。例へば、同教授の試驗で一〇四九の三といふ番號の梁に於ては一萬六千ポンドの荷重で三分點の直、外の點で測定したポンドの應力は三百八十五ポンドで、理論式から出した二百七十ポンドを遙に超過し、又、二萬一千九百といふ梁の破壞の時の荷重に於て同樣、理論から出る三百八十ポンドと云ふ應力をも超しました、即、支點に於ては初めの荷重の時二百六十ポンドに過ぎなかつたので理論とよく一致したのですが、決して理論通りに外の三分の一の部分では一樣ではありませんでした。是れに依つて、ポンドで破壞する梁に於て積極荷重の時普通の計算式から出る應力が、抽き拔き試驗で表れるポンドの應力よりも小さいと云ふ事が說明がつきます。

支點と荷重との距離がポンドの應力に及ぼす影響が前述の試驗から分ります樣に、荷重が支點に近くなると共に最大のポンドの應力は段々大きくなります。バッハ教授は一・二・三の調合の梁で、四十五日目に試驗をしました。荷重の距離を九・八吋、一九・七吋及二九・五吋とした時に、破壞の時のポンドの應力は、夫々五〇七、三二五、及三〇八ポンドといふ平均の値を示しました。即、荷重が支點へ近づくと共に、ポンドの應力は漸く增大するのであります。

材齢とポンドとの關係、ウイスコンシン大學のウイシー教授の試驗では、コンクリートは打つてから日數の經つと共にポンドの強さを增大するといふ結果を得ました。又、バッハ教授は一・二・三のコンクリートで作つた梁を濕つた狀態に置いた時に廿八日目に二七八ポンド、四十五日目に三〇八ポンド、六ケ月目に三九三ポンド、一年目には四三五ポンドと云ふ結果を得、乾いた狀態に保つた梁では同樣の材齢の時に夫々、二七一、三一九、三五六、三六三ポンドと云ふ結果を得ました。即前のウイシー教授同樣、材齢と共にポンドの應力も增すものだと云ふ事を實證されました。

コンクリートの調合の影響　試驗の結果に依りますと、ポンドの強さは、セメントの量の多いモルタルを用ゐた場合(即、砂利以外の部分に就て)に著しく增加し、砂利の性質は、鐵筋の周圍に穴の明く樣なコンクリートの打ち方でさへなければ著しく影響はしないものだと云ふ事が分明しました。ウイシー氏の試驗に依りますと、グラヴエルを用ゐた時とライム、ストーンを用ゐた時とのポンドの強さは殆差がない、即、甲の方では二百七十六ポンドで、乙では二百七十五ポンドでありました、しかるに應壓の強さはグラヴエルを用ゐたコンクリートの方が二千二百ポンドに達したのに右灰石の砂利を用ゐた方は千七百九十ポンドに達した丈でした。又、一・三・六のコンクリートで石灰石を用ゐた時に、ポンドは二百十六、應壓力が八百三十ポンドでした、以上は何れも材齢六十日のもので行つたもので、千九百九年のウイスコンシン大學の報告に載つて居ります。

鉤形に曲げた鐵筋　鐵筋を鉤形に曲げて用ふる場合には、次の如き注意を必要とします。

(一)鐵筋の中に起る應力が著しい變動を生せずに彈性限度以內に止めなければならぬ。

(二)鉤(フック)を受けるコンクリートの堪へる力が安全なる限度內にある事。

コンクリートの堪へる力はコンクリートの性質に依る事ですから、コンクリートが潰れるのに堪へる安全率は普通の應力を定めるのと同樣でなければなりません。試驗の結果を見ますと、コンク

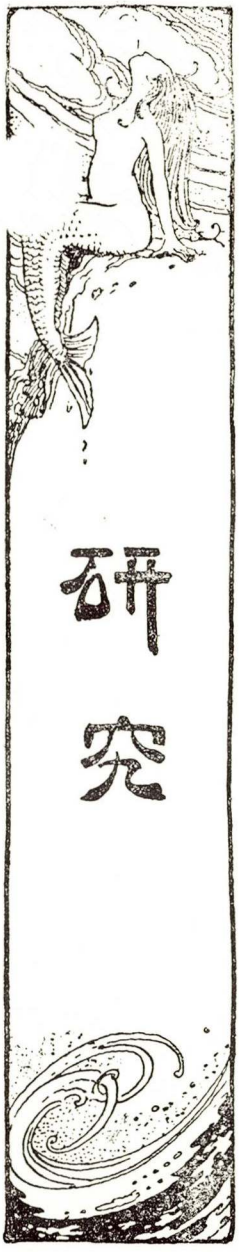
リートの壓力に堪へる力は自由に動けぬ樣にそのコンクリートを制限した時には普通の立方體や、圓壔形の試驗斤で行つた時よりも大きい耐壓力を發揮します。故に、フックがコンクリートに入つて居る時にはフックの生ずる應力はこの制限されたコンクリートの場合を基とすべきであります。夫故にフックの有効さを比較するには、そのフックを受ける面積を考へに入れる事が何より大事な事になります。

フックを梁の端などに用ゐて鐵筋の抜け出すのを防ぐ樣な場合に鐵筋は、その彈性限度一杯の應力に堪へても、同時にフックを受けるコンクリートが裂けたり、又は壓力に堪えないで潰れたりしては、コンクリートの方から見て安全率が充分であるとはいへません。如何となれば此の場合に於ては合理的の設計に於て用ふる四と云ふ安全率を出さずに僅に二といふ安全率を有するに過ぎないからであります。

マサチユセッツの工藝學校で行つた試驗では、凡ての試驗は一呎角長さ十五吋のブロックに六分丸の鐵筋を深さ一呎丈埋めて、其の端を或は直角に曲げ、或は直徑三吋の半圓に曲げて行ひました其の結果

（一）六分の丸棒の長さ十二吋のもの（即、徑の十六倍に當る）の先に、長さ四吋（即、直徑の五倍に當る）の直角の曲げのついたものでは、此の鐵筋を彈性限度に達する丈に應張力を起させることが出來ました。けれども、此のフックはコンクリートを潰して、此のブロックを破り、結局必要なる安係全數を與へませんでした。しかし是れ以上、曲りを長くしてもコンクリートが堪えぬから安全にはなりません。

（二）半圓形の曲げで、その圓の直徑を鐵筋の經の四倍にしたものは直角に曲げたものより遙かに有効でコンクリートの方も過度の應力を生する事はありませんでした。



古代民族心理と建築（二）

山崎萬壽夫

埃及の藝術は宗教藝術であつた。

メソポミヤの藝術は帝王藝術であつた。

埃及に於てもアッシリヤ、バビロニヤに於ても寫實の或種の優秀な表現は彼等が自然に對する態度の本來第二義的であつたことを示してゐる。或は宗教象徴或は王者の威嚇說話の用途或は圖案裝飾的用途に供する爲氣儘に樣式化して自然を記述暗示する以上には製作の主動機は殆どなかつたと云つてもよい。然るにこの永い間成長して止まなかつた幹からは遂に咲き出すに至らなかつた藝術の花がホメロスの詩と共に希臘文化の黎明に咲き出でたのである。

エーゲ海文化よゝ暗黑時代をへて新生復活の黎明が小亞細亞のキオス島に明けたとき自然の形容の美しさに第一義の興味を置いて深入りしてゆく本當の藝術的態度が人心の自然感受の進歩と相呼應して發展していつたのである。

西紀前三千年歐洲の大部分と同樣に此地方も青

銅時代が支配してゐた頃既にエーゲ海を中心とした文明が咲いてゐた。勿論埃及西方亞細亞の文化の敎導と感化とを深く蒙つてゐたものには相違なかつたけれど一方には或顯著な特色を有して別種の文明の萠芽であつたことは示されてゐる。『希臘人はホヱキニヤ人からアルファベットを借りた。然しながらそれを以て書いたものはホヱキニヤの言語ではなくて自分自身の言語であつた。恰度それと同じやうに希臘人は美術上のアルファベットを彼の先進國から澤山に借りてゐる。然しながら常に文學に於けると同じく美術に於ても希臘人はそれを以て自分自身の言語を話した』のであつた（ブルン敎授述）

かゝる希臘は實に風光明媚の國であつた。內地には數多の山脈が重疊して山國を形成し其の分脈は直ちに海に迫つて懸崖を形作つてゐる。そしてその僅か許りの前面は海に背面は山の谷間には所謂都市國家——希臘社會組織の根本であつた都市を中心とした小國家が生れたのである。希臘精神は多く此の都市國家の賜であつた。都市國家なくして希臘を考へることは不可能である程希臘には固有であつた。都市國家とは相互の間に競爭多い小團体であつたから彼等は明瞭に己れに覺めると同時に強い團体意識即ち愛國的自由自治の精神をもつてゐたのである。

温和なる氣候と清朗なる天氣と明媚なる風光とは最も大きい影響を彼等に與へてゐた。彼等は感受性の極度に強い——快活で情緒が纖細で感情に動き易く憂鬱を知らない民族であつた。彼等はセンチメンタルではあつたが、センチメンタルの中に言ひ知れない愉快を覺えてゐた。彼等は神の存在を信じてゐたけれども彼等には神は唯彼等の理想鄕を表はしたものであつて人生の疑問に最後の解答を與へるものではなかつた。埃及の神やアッシリヤの神とは全く意味を異にして彼等は神を信じてゐた。彼等は此の樂しい現世を更に一層藝術化する爲に種々な現象に神々の名を附けたに過ぎなかつた。希臘文化の先頭に立つたホメロスの神觀にあらはれた現實に生きて其以上多くを求めぬ人世觀は靈魂及び死後の觀念に於ては明かに靈魂

の不死即ち永遠の生には無關心であり、靈魂の宗教的意義の否認こそ寧ろホメロスの態度とも考へられる、世界及び人生を支配する者は靈魂のやうな地中に宿る暗らく氣味惡い捕へ難い實在ではなくして彼の天上高く聳ゆるオリユンポス山の輝く絶頂に遊ぶほがらかな美しく鮮かなる姿の神々であると彼は歌つてゐる。自由と活動とを好んで地方的傳承の羈絆を最も完全に脫した進步的民族イオニア人が死者の墳墓と密接の關係ある靈魂崇拜に對してあまり多くの執着心をもたなかつたのは當然といふべきであらう。彼等は早くも土葬を捨てて火葬をとり靈魂のやうな平和の攪亂者をこの明るき世とは何の交通らないエレボスの奥に幽閉するに對して何等の異議をも唱へなかつたのである。だから彼等は異常なる知識慾にかけても尙不明のものや不思議のものにのみ神の名を附けて此世には人間の力で知り得ないものはないと考へてゐたのである。希臘には本當の宗教がなかつたとも言はれやう。彼等には一般的に神を愛すべきものとして恐るべきもの敬すべきものとは考へてゐなかつたと言はれる。しかし彼等は其等の神に對しての不敬に關しては決して他の民族に讓らない罪を課してゐた。例へば神の存在の否定、人事に對する神の支配の否定、祭祀犧牲、寺院神殿の侮蔑、死者に對する種々な義務を行はないこと、神に捧げた橄欖樹を切ること等は何れも許されない行爲であつた。

前にも述べたやうに何等の明晰な頭腦は知識慾に滿ち溢れて凡てのものを知識で解決しやうと試みてゐた。簡明の二字は初めて希臘に生れたのである。從つて論理學が簡明なる思想によつて組み合され抽象が行はれ彼等は自由に對照し比較し排列して現實をもこの抽象の中に編みこまうと努めた。彼等は現實そのものを藝術化せんとし凡てを夢として其夢の中に彷徨してゐたのであつた。

最古東邦諸國の因習が希臘時代に入つて消滅し盡してから藝術は初めて惠み深い保護者を得たのであつた。人本的な宗教と肉体を虐げない風俗とをもつた希臘人は彼等の優れた藝術を以て神々に仕へたのである。アテナイがペルシヤ戰爭の後都

市の守護神に捧げた事業は其最も目覺しい記念であつた。

愛國的といふこと卽ち國家本位といふことは希臘藝術を大きく支配してゐた。希臘の藝術の本質は希臘の宗教と同一体であつた、盛なる宗教藝術の成立は歐洲中世の基督教にも見られるやうに原則として宗教の手段としての副産的發達の域を出でないことであつたが、希臘の宗教は顯れる處必ず藝術であつて其以外ではあり得なかつたのである。希臘の自然宗教に於ては自然は——從つて自然の反映である藝術は神の象徴ではなくして神自身であつた。故に自然の讃美に眼を注いだ第一義の藝術製作が乃ち敬神に歸着しておつたのである茲に於ては希臘の宗教は美の宗教であつた。

希臘民族の宗教は幾多の地方的崇拜にわかれ各地方は特殊の神を崇め特殊の神話を傳へ殆ど何等の統一も見られなかつた中に立つて一定の特性と活動の範圍とを有し一定の秩序に從ひつゝ共に天上の一國家を構成する一定數の諸神即ちオリユンポスの諸神の永へに亡び難き澄み渡れる美しき姿を描き出し産み出した天才こそ詩人ホメロスであつた。然しながらその起原に於ても特質に於ても宗教的と名づけ難いこのホメロスの二大詩が希臘文化特に宗教並に宗教思想に及ぼした影響は極めて大きいものであつた。希臘人は依然として地方的神靈を地方的儀禮によつて崇めたけれども彼等は其等の神靈をオリユンポスの普遍的諸神と同一視し彼等をホメロスの刻み出した不朽のあざやかな姿に從つて表象し表現したのであつた。かくしてホメロスの影響は地方的崇拜以上に新なる國民的宗教を創造する最も強い原動力となり彼の神觀は希臘在來の宗教を美化し醇化し高尙なる精神的内容を以て充したのであつた。

希臘の神々は縱令天上地下に住するとも本質は地上の自然人と同格より出でなかつた。地上に滿足な希臘人の想像力は現實の解脫と超越界憧憬の方面に働かずして反對に現實の肯定と讃美從つて其執着と享樂とに働いて超越界は現實界の美しい延長と考へてゐたのである。昇る旭日に凛として輝く如き、青年の神アポロを想像し紫の地中海に

立つ白泡に眞珠の肌美しい美の女神アフロディテの誕生を想像する樣に神々とは享樂多い自然兒が詩的連想によつて視覺化した理想優秀型の人間であつた。美神ヴイナスの魅力に繋がれたタイホイゼルの物語は、此等の神の性質を適切に示してゐる。

以上の如うな希臘の宗教は先づ第一次の必要品として神像彫刻を要求し大規模なる神殿建築となり信仰者の寄進用として第二次的の神像を要求した爲其製作は非常に大規模な藝術の擬脚となつたのであるが彼等個人の自由なる多方面の活動は殆ど人間能力の極限に達してゐたに拘はらず大体に於て國家に於てのもの又國家の爲のものであり公的生活を離れた私的生活の價値は原則としては認められてゐなかつたのである。パルテノンを飾つた諸藝術品も三大悲劇詩人達の諸傑作も等しく國家的産物であつた。國家的生活のあらゆる規範に權威と拘束とを與へたものは實に宗教であつた。市民達は神の守護によつて恐れられた外敵を打破り同じく神の守護によつて國運の隆昌と文化の充實とを誇り得又樂しみ得たのであつた。敬養に富んだ自由なる市民は同時に敬神の念深き市民であつた。文化の諸要素は美しい均衡と調和とを保つてゐた。當時のアテナイを輝した不朽の藝術品は斯くて神への獻げ物であつた。

藝術は此處にあつて國家的熱誠と資力とを以て宗教を通じて大規模に需要されたのであつた。幸福なる彼等のこの需要に應じて如何なる藝術が生産されるかは全く民衆の好尙に從つて自由伸展が許されたのであつた。

ペルシヤ來襲の爲に破壞せられたアテナの神殿は彼等が思ひ掛けない勝利に畢つたときペルシヤに對する敵愾心と優勝者の矜持と富强とが神に對する熱烈なる感謝となつて國民の熱誠と嘉賞のうちに天才フイデイアスのパルテノンの完成を授けたのであつた。希臘人心理の凡ては美しく此天才を通じて完全に反映されたのである。

簡單に見えるパルテノンは實に視覺矯正の微妙なる工夫が凝されて周到なる注意、本能の鋭どさ所信を行ふ大膽とは美の極致となつて表現されて

ゐる。パルテノンの建築の何れの線を取り出しても其處には幾何學的の直線は一本もなくそれらは凡て生命の線の圓やかな曲線である。パルテノンが端正の氣持を破らすに而も周圍の自然と調和し安心と美快とを以て其輪廓を示してゐるのは悉くこの微妙なる曲線の働きである。まことにパルテノンは自然の生命の結晶体のやうな美しさを具へてゐる。

この神殿と相隣つて考へられるのはアテナイの劇場である。希臘に於ける悲劇は此アテナイの特産物であつてそれが市民の娯樂の爲に生れたのではなくして國家が神を崇める爲に行つた宗教的行事であつたことは近時の研究で認められたのである。然しこの悲劇は近世的意義——或一定の動作を劇的に再現するといふ意義に於てではなく其自らが神の前に演ぜられる宗教的動作即ち神事であるといふ意義に於て解せられてゐたのである。アテナイに於てはデイオニソスの祭禮の最も重要なる部分として悲劇は國家的年中行事の重大なるものであつた。宇宙は調和を原則として成り立つてゐる。調和が動的に顯れゝは旋律である。自然が障礙なく本來の面目に動けば旋律的流動——舞踊となる。以來彼等は『自然』の人化である神々に舞踊を神事として奬勵し保護して一面希臘の宗教行爲は悉く舞踊に現はれたと信じさせる程であつたが斯かる中にアテナイの悲劇詩人によつて作られた劇は同しく宗教に發して舞踊を中心要素として行はれたのであつた。

舞踊、悲劇と並立して神前競技は希臘宗教の要件であつた。元來希臘の神々は彼等自氣が優秀な自然人であつたから自然行爲である舞踊と同樣に人間が自然能力を有効に發揮するのを見るを悦ぶといふ彼等の信念に基いたものである。

政治上經濟上又精神上あらゆる方面に於ける驚嘆すべき絶大の努力によつてアテナイ人は歷史に類ひ稀なる多面的なる豊富なる充實なる其文化を産出したのであつた。一般市民の敎養さへ今日に於ても到底達し難い程度の高さに登つてゐたのであつたがあらゆる善美を盡したアテナイの文化を蠻殖しつゝあつた富や權力や成功に醉つた國民を

精神的貧弱及荒廢に誘ひつゝあつた無自覺的生活並にソフイスト達が代表し又特に思想の形に言ひ表はした理想に對する冷淡――この時代の病ひは漸く國民を精神的墮落の淵に導きつゝあつたのである。しかしかゝる傾向を見せるに到つた希臘文化の全盛期は詩人の時代より哲學者の時代に推移して惠み多き人々は此處にその救主ソクラテスを得て當然の歸結であつた破綻より脫することが出來たのであつた。

貌言は花なり
至言は實なり
苦言は藥なり
甘言は病なり



亞米利加の都市計畫（五）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生譯

善良なる市民を建設し始むべき場所は、即ち兒童であるといふ確信が、漸次に增大すると共に、協會の圖書室を少年等が利用し理解し得らるゝ樣に適用し、三個の展覽室、或連續講演等をも設けたる處、それは兒童と等しく大人にも興味ある場所となり、眞に敎育上の立場と同樣に社會上からも、市俄古に於ける價値ある敎養上の力ある場所たるとが認識さるゝ結果となつた。市の都市計畫案を、學校に於て敎ふるといふ思想に從ひ、兒童等は他の公共的の建物に於て、善き市民たるの多くの分派に就て敎へられてあるっ遠大なる抱負をもつて、未來の責任ある行政上の頭たる可き兒童等を訓練するとに着手せし點に於て、市俄古市は米國の諸都市中開拓者たり先導者となつてゐる。

各土曜日には協會の建物は、市の歷史に關し兒童のための講演の過程に、出席せしむ可く、彼等

の學校の級から送られた秩序ある兒童等をもつて滿されてゐる。父祖紀念祭には、兒童のみでなく父兄や外國語を語る外人等の群も、その居住地からやつてくる。而して外國語を語る人々の群は、そこに市に關する如何なる古代のものをも發見することが出來るに驚きの聲を發し又ワシントンやリンユルンの肖像や紀念物を見て、純粹土着の米人よりも一層の敬意と興味とをこれらに抱いてゐる。

又大戰に際し協會は陸海軍や、赤十字等のポスターを蒐集したるが故に、該大戰はこれ等によつて說明せられてゐる。此愛國主義の敎訓の實際的結果に奬勵されて、歷史協會は公衆告知委員會國民的地方的奉仕委員會に對し、愛國主義の宣傳に於て援助し得らるゝ凡ての便宜を提供す可きことを申出た。イリノイス州百年紀念祭委員會と協力し協會は『七の戰爭の戰旗、戰勝紀念』を含む、最も貴重なる多くの蒐集物の轉寫をした『七の戰爭の戰旗戰勝紀念物』は一九一八年に、イリノイス州の百年紀念祭の祝賀を開く際、オーケストラホールで展覽したものである。

協會がその進步する點に於て、蒙らされてゐるハンデイキャップは、市は活動の中心から遠ざかつてゐるといふ點だけでない。市俄古市のパトロン等の寬宏なる精神により、蒐集物は年々增大し展覽は更に一層の頻繁の度を加へ、而してかうして反つて市と協會の價値と効果との眞價を捏損しつゝある。確に保管の增所が不適當であるのであるから、申込まれたる或贈與物を辭退するのは必要ことである現在の如き狀態の下に管理するは、困難を增すのみであり、協會の發展の可能性をも阻止することになる。現在よりも一層便宜なる位置にある、更に大なる建物があるならば、協會は米國に於ける最大の歷史博物舘となるであらう、現在本書を書きつゝある今日、既に協會の蒐集品は適當なる建物を欠ぐがため、散逸するの危險に臨んでゐる。市をして尙に第一流の位置を保たしめたる精神は、何等かの方法をもつて此現在の境遇を救ひ、現在の兒童等、未來の市民のために、藝術や音樂が與へ得るよりも一層價値ある遺產を

提供す可く努むるであらうと信ずる。卽ち此協會によつて管理さるゝ大市民歷史博物館を遺產とすることが出來るのである。而してその建物の設けらるる位置は新に北方に延長さるゝミシガンアヴエニユーの如きは、最も適當なるものであると信ずる

協會はその會員の義務金により、寄贈基金の利潤によりて、主に維持され來つたが、公に奉仕しつゝあるその價値に就ては、市に認識せられてゐる。そのとは協會が凡ての課稅を免除されつゝあることに就ても明である。市俄古市は多くの富豪を有してゐる。こゝに本協會を寄贈したマーシャルフヰルドの寬大なる精神に、劣らざる神精を發揮す可き、新なる機會がある。最も有用價値ある敎育的協會が必要としてゐるものを、永遠に供給するの機會がある。更らにまたたとへば紐育に於てカーネギーの計畫に基ける多くの支部圖書館がある如く、市俄古市に於ても富有なる者等の群を走り、彼等をして斯る企をなさしむるの必要があるマクルヴアイネ孃は、こういふことを公言してゐる。市俄古市と他の都市と著しく違ふ點は、市俄古市が少年少女兒童のための事業を專門化してゐる點であると言つてゐる。而して市がかゝる企に勢力を集中する重なる目的は、國を愛するの念を兒童等に刺激するにある。實際兒童等を養育する點に於て、市俄古程適當なる場所を、他に求むるは甚だ困難である。此市程少國民の精神、身躰雙方に對し多くの注意を向けてゐる市は他に發見することが出來ぬ。此ことが如何に將來の都市に對し多くの財源となつてゐるか、想像し得る者はなからう。市の都市計畫に就て市に於て敎へられてゐる學校敎科書は、諸々の都市から注意せられてゐる。彼等諸都市はその兒童等をして、その都市、その歷史、その成長、その未來、現在に對し銳い明晰な活々した興味を、いだかしむるの必要を認識し、市俄古市の遣方に注意を拂つてゐる。又我等は市民が彼の義務を盡すには、來る可き時代の市民の幸福のために計らねばならぬ時代に到達してゐる。今日世界に於ける眞の偉大なる事業は、未來を豫見し、未來のために建設することであることを、若き者に敎へ又市民が實現するとが

必要である。

市俄古に於ては公立學校に於ける藝術、音樂の敎授は專門化してゐる。兒童等の間に音樂を普及するに努力しつゝある市民音樂協會の顯著なる事業學童の一群は市によりて處理されつゝ大工場の裝置の視察に旅行しつゝある。市の道德的空氣は世界的に最も有效なる働をなしつゝあるキリスト敎青年會、日曜夕のクラブによりて保護されつゝある。無數の社會殖民事業の中心は、米國のどの都市よりも優りて本都市に於て最も完備し徹底的に組織されてゐる。世界に於て最も美しい完備した兒童遊戲場も本都市にある。諸學校に於て本都市計畫に就て敎へつゝある。凡て夫等の兆候は、市が他日その市民の品性に於て、環境の美に於て新世界舊世界中他に比類なき位置によるとをかすものである。

右の問題中道德的側に於て市が如何に進步しつゝあるかてふ証據は、紐育が敎會、傳道館、禮拜堂の數一五二〇なるに、市俄古市は一二〇〇を有してゐるとによつて分る。これを兩都市に人口數に比例すると、市は紐育のそれの殆ど二倍を有することになる。

敎育上の方面に於て、紐育に十個のカレッヂとユニバーシチー、三三九個の公立學校なるに、市俄古市には七個のカレッヂとユニバーシチー三〇個の醫學校三〇六個の公立學校がある。これを人口の比例にすると、市俄古は紐育よりも遙に多くの公立學校と又カレッヂ・ユニバーシチーとは三分の一多いことになる。

市加古大學には卒業生の入學する文藝學校、同じく卒業生の入るヲグデン科學學校、文藝科學カレッヂ（二年生）學校、法律學校、醫學校、敎育學校、商業學校を含んでゐる。

その大學は勿論第一に學究的な研究者のために設けられたものではあるが、併し又一般の公衆にも多くの特權を與へてゐる。大學の圖書館は六十二萬四千九百三十六冊の目錄に記されたる書物を有してゐる。その外目錄に上さない材料は夥だしい數に上つてゐる。而してその外一般の圖書館、支部圖書館、二十萬冊のパムフレットを有してゐ

る。法律學校の圖書館は、市に於ける圖書館は最も重要なる法律書を蒐集してゐる。その量三萬三千冊に上り、英字をもつて記さ、あらゆる報告書、法令、及ひ外國文字のあらゆる材料を含でゐる。神學校抱括的な神學圖　館であつてヘツグスランベルグ蒐集、ユルウエル圖書館を含有してゐる。

ハスケル東洋博物館は、東洋藝術、考學を說する！主としてエジプト、バビロンや、日本のそれを含む——價値ある蒐集である。エジプト蒐集は別して價値あり、一千の原紀念碑石　を有してゐる。エジプト歷史と考古學の古期間の凡てを含んでゐる。ワーカー博物館蒐集に殆ど一の標本を含んでゐる。重に岩石、鑛物、化石、考古學的標本浮彫地圖を含んでゐる。

市俄古大學の學生數は、世界大戰前には、ベルリンのウヰルヘ　ム大學の學生數を超過してゐた



ゲオルグ・ユーゲ子・ホイマンマン男、巴里の再建築者。古今の最大なる都市計畫者

市の郊外にあるノースウエ　ターン大學のエバンストンでは十箇　部門に分れてゐた。この中には藥劑學、カレッヂ、齒科學校、音樂學校、商業學校、辯術學校エバンストン・アカデミを含んでゐる。



常綠の群れと、汪洋たる平野を背景として、
清新なる活々しき姿態を現はせる「花屋敷」山莊
現代住宅改善の理想を如實化せる創作

日高胖氏の新邸

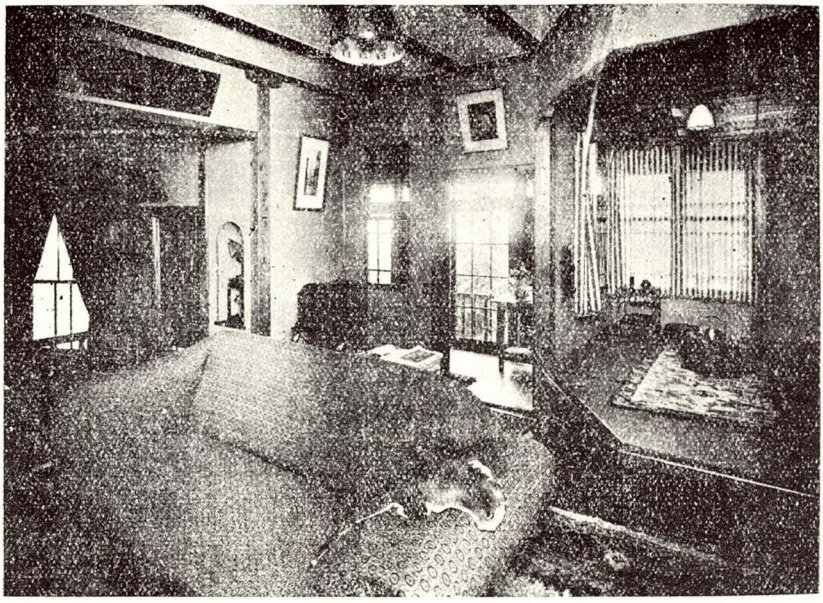
（エレベーションとプランは口繪に掲げて參照）

華城閑人

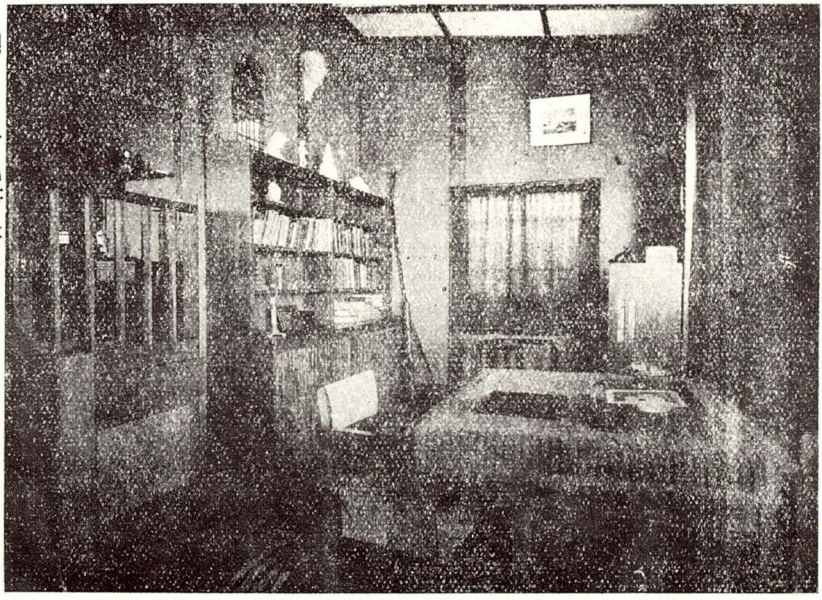
阪急沿線『花屋敷』停留場を、爪先き上りに山の手へ二三丁、北攝交通の翠巒脈々北走せる一角、常綠の針葉林と、今ならば、薄黄金色の稚子葉を交へて、おぼろ紅せる若櫻の彩る中に、東南面して、奈何にも多角形？な、頗る印象的な、そして其處等邊りに點在せる新營の邸宅中、卓然な容姿を有てる新邸を見出すであらう、是がなむ、住友合資會社營繕課長日高胖氏の新邸である。

記者は、曾て、同氏に、所謂住宅改善問題に就いての高見を乞ふた、其語られし處、如何にも、現代我住宅改善の過渡期に處して、頗る隱健な、而も、極めて創意的な見解であつたとは、曩に、記者が同氏の名を藉りて本誌の幾頁を費した。這回、同氏の設計に成れる新營の邸宅は、件の理想を具體化されたるに於いて、又建築技術家たり、住宅改善論者たる同氏の創作其ものとして、記者は少からざる興味と敬意を有ち、或る日曜日の午後を、同氏の新邸に送ることを得た。

斯くて、同氏の懇切なる說明と、溫謙なる待遇とに、快く參觀の幾時を費し、其處等中をカメラに收め、扨て今斯の原稿紙に向ひつゝペンを秉つてみたものゝ、由來素人のわたしとしては、何を書いていゝのか、怎う說明すべきであるか、實は今更ら自らの空虛に、しみじみと情けなさを感ずる。そしてなまじかな事を書いて、嗤はれ者となるは未だしも、却つて同氏の迷惑を、と思ふた上



日高胖氏新邸『居間』



同上『書斎』

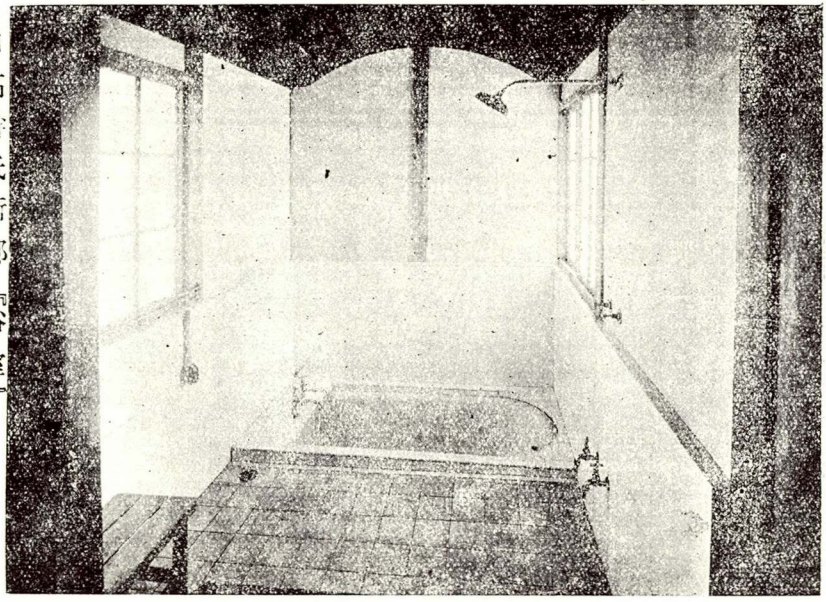
げ句、不如、エレベーションとプランを此處に投げ出して、默する方が、なんぼうか賢明な遣り方である、かも知れぬ。けれども、記者としては物足らない、仍で、記者の素人觀を二三書き綴り、讀者の是正を乞ふ事とした。若も、同氏に迷惑の點あらば、幷は、記者の豫め篤く謝する處である。

先づ、全體として、記者は、之を、動的氣分に富むだ建築だ、と云ひ度い(若も斯ういふ言葉を許すならば)。即ち、變化の多い、目先きの異つた、奈何にも建築其ものに精氣の髣髴せる、そして、恰當、渦巻きが循環するように、或調律的統一の下に、氣分が動いてゐる、と記者は感じた。

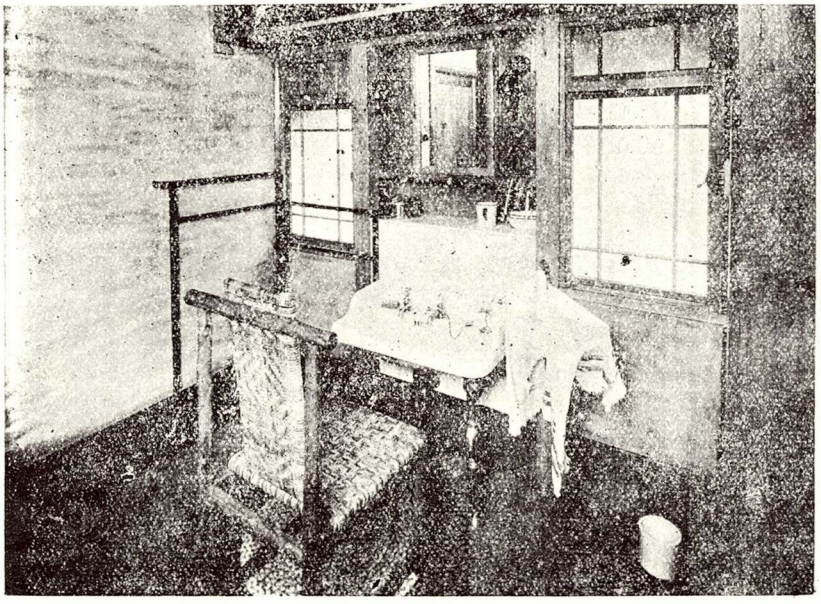
若も建築を調律的に分け得るならば、動的建築と靜的建築の二つに、即ち固定沈滯の氣分を與へられるものと、何かしら、始終躍動の氣分に觸れてゐるもの、斯の二つに見分けが附く、と私は思ふ。勿論、建築を、構造技術其ものから批判せない限りは、云ひ換ゆれば、科學の與へた公式そのものによる批判でない限り、悉く主觀による批判である。故に、例へば　多角形?な建築を排して方形なそれを好む人もあらう。そして、幷ういふ人に、云はせると、方形にこそ、或は半圓形なものをあしらう抔、其處に、却つて建築の均勢があると斯ういふかも知れない。それは觀る者の自由な批判にある。けれども、四角なものを幾等分したとて、其處に裝飾の數々があるとて、大觀すれば所謂持ち合い、又は均り合い乃至均勢こそあれ、左して變化てふ氣分は與へられない。隨つて、建築に躍動せる精氣、活動せる生命なくして、若しあるとすれば、固停沈重の生命あるのみと云つて可からう。斯の意義に於いて、件の新邸は、全體として、躍動の精氣と、活動の生命ある建築、之を表現的に云はゞ、均勢を保つて極めて變化ある建築だ、と云ふの外はない。

そして、部屋々々の構造が、殆むど創意の加ははらざる處なく、從來の何かの型からも全然脫却してと迄は行かなくとも——それは不能な事かも知れない——、其中心の、殆むど悉くが、創始的な考案になつてゐる事の、歷々觀取し得るを、記者は嬉しく思ふた。

日高胖氏新邸『浴室』



同上『化粧室』

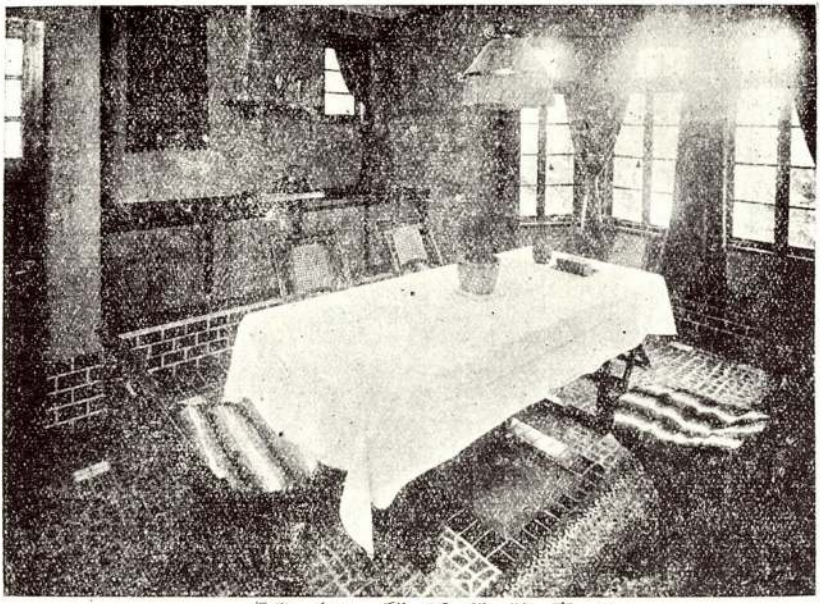


奇嶮な處や、捻ね狂れた處は毫末もなく、其癖日本在來の手法を洋室に取り入れて、日本ものを洋風と融合させる爲、日本式氣分を其儘、型の上に變化を加へて、何の矛盾もない樣に、しっくりと調和させた苦心の程を、まざ〳〵觀受けられた。例へば、椅子と卓子と、ソファーと、新考案に成れる壁附煖爐の用ひられてゐる部室に——私は是を西洋室だと云ひ度くない——其煖爐の左側隅角へ、小型の方形な物置棚を上段に、下段を物納れに拵へ、日本室の「違ひ棚」と、「地袋」を利かした氣分抔、煖爐左側の物足りなさを調和すると同時に、斯の日本式氣分がしっくりと、其處等のものに融合してゐるが如き、其一例である。

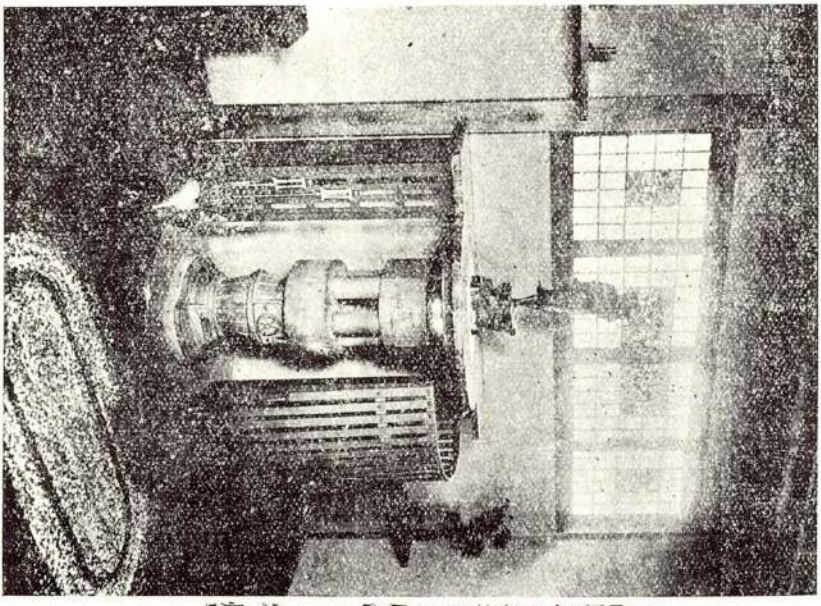
殊に、極めて創意的な、そして、日高氏豫ての持論を最もよく具體化されたのは、件の居室の一隅、入口右手取り付きに、床を一尺二寸許り上げて三疊程の疊敷と成し、簞笥と水屋に、茶棚に瓶懸け、松籟を立たせて、湯氣の閑かに上るさま、其處に、純日本式氣分を充分に味はれ得ると同時に、下床西洋風な設備と、毫末も不自然な感を與へない許でなく、それが、却つて、目先きの變化に富むだ一つの設備と成つてゐるから、少からず感興を惹き、苦心の程が窺ひ得られる。

住宅改善といふ事が、日本在來の樣式を打ち壞して、西洋風を摸倣するのは、日本人としての種々な意味に於て、改善か寧ろ改惡か、蓋し孰れとも云へない程爾く改善の標準價値が怪いものである。そうなると、採るべき途は、所謂創作の外はない。併し、創作といつたとて、全然どちらにも付かない超越したものを拵へるのは寧ろ空想で、謂はゞ、孰れの色彩が勝つてゐるか、といふに外ならぬ。即ち、其色彩の取り合せが咄く行つてゐるか、怎うか、といふ事にある。上記の西洋味の勝つた部室に、日本座敷を取り入れた事が、斯の意味に於て、わたしは確に成功だと信ずる。

尙ほ、住宅改善としての創作に就いて、奈何に同氏の苦心の程を窺はれ得るか、其細かい點の一つ二つを擧げてみれば、先づ、何んでもない樣で實は非常に便宜を覺へるのは、表玄關へ這入つた突き當り、式臺?に隣りて椽樣な腰掛けをしつら



日高胖氏新邸『食堂』



日高胖氏の新考案に成れる『廚房』

へられた事である。是は、靴履きの儘出入し得ない限り、脫靴の際は兎も角、洋裝せる來客抔の辭去する場合、何時も玄關の式臺に腰を卸すか、若くは立つた儘でか、何にしても甚だ不便に靴の履き方をせなければならぬ。斯ういふ場合に、件の腰掛けは甚だ重寶で、式臺から、ちつよと横に腰を捻ねれば、腰掛けた儘で靴を履かれる。而も、其拵へが、恰も、日本流の『供待ち』に似て何の不調和もなく、日本座敷の氣分を漂はせてゐるのが有り難い。

今一つは僅かな事ではあるが、居室のステーンドグラスの如き、所謂ステーンドグラス模様式でなく、——即ち所謂型の通り式でなく又摸倣でなく、日本模様を西洋味に崩した抔も、亦用意の程を窺はれる。そして、其窓硝子の白色を薄茶色に染めて、中央に在る件の模様を柔く引き立てしむると同時に、室内の光線を落ち着かしめたる如き餘程細心な考慮の程を懐はしむる。

記事は、あちこちと飛ぶようであるが、ヴエランダーに於ても、亦一つの創意が窺はれる。それはヴエランダーと居室の間仕切壁に接し、絶えず涓滴として、落下する一つの噴水盤?を設けた事である。單に裝飾として、ヴエランダーの氣分を引き立てる許でなく、是も、實は、同氏豫ての持論のように、冬季抔には、室内の空氣を濕らし、煖爐の放熱と相俟ちて、室内温度を調節する處の謂はゞ科學的な設備でもある、と想像された。

各室全體の聯絡關係に於て觀るも、中央の居室から、應接室、書齋、ヴエランダーと、間仕切りを徹しても、それ等が各室各様な個性を具へて、居室を中心に統一されてゐるのが嬉しい。而も應接部屋はカーテン一つで、書齋は、地形を利用して居室より二尺四寸程下げ、居室との連絡は三段許の階段と勾欄によつて爲され、ヴエランダーは居室の直前、幅六尺五寸長十一尺に一尺七寸の『刎出し』を設け、居室との間仕切上部を硝子戸にしてあるから、光線の射入は各室とも申分なく、殊に居室が、書齋、應接室、ヴエランダーを洗つた光線の綜合點と成つてゐるのは、最も理想的だ、と肯かれた。

何にしろ、「創意」と「變化」が、住宅改善の各條件を通じて這般の設計と成つたように見受けられるから、柱の如きも、特に？悉く檜の小節を用ひてゐるのは、亦一段と室内の變化味を見せる考案に成つたものであらう、と想はれる。

更らに、紹介し度い事は、浴室と地中室の食堂である。浴槽は、同氏の考案に成つたもので、例のエナメル引きの西洋風呂を用ひられてゐる、と云つた許りでは、西洋風に其儘を用ひたものと誤解されるが、是こそ亦氏の新考案で、一口に云はゝ、西洋風呂を直接下から、煮くようにしたもので、何んの事はない立體的な從來の長州風呂を平面的にしたようなものである。何んでも西洋風呂のエナメルを引いたのは、それを灼化する迄燒いてエナメルを引くのだから、それに熱を直接與へても決して剝げない。而も、非常に薄いから、僅に二十分間位で湧くそうである。そして、横臥の儘溫まり得るから、日本在來のものに比して、溫る面積が多く、水は從來の約半分位しか要せないとのことである。

次に、食堂は、地中室だとは云へ、丘腹の斜面を利用されてゐるのだから、窓前は眺望あり、隨つて、光線の射入最も良好である。特に女中部屋及び厨房に隣りて設けられたのは、聯絡の便宜上左もあるべき事だと思はれる。そして、此處にも新考案の一つとして目に附くは、食卓下中央に方二尺許の爐を切られてあるのも其一つである。

何分四圍は煉瓦であるから、一旦室内が溫らば保熱の工合が非常によい、隨つて、爐へ炭團を三ツ許も入れて置かば、それで相當な溫度を保たれるとのことである。それに反して、夏季は非常に涼しさを覺へる、といふ理想的な設備である。食卓は、六人乃至八人の座席を取り得る

今一つ紹介を要する事は、煖房の設備である。ヒーチングに就いては、曾て同氏の御意見を本誌で紹介したが、其理想を斯の煖房設備に具體化されてゐる。電氣煖房は一等手輕な方法で、或は理想的なものかも知れぬが、電力料金の不廉な我邦の現代としては、今一つ理想的でない。さりとて瓦斯は多少な臭氣を忍ばねばならぬ不便がある。

其處になると、依然石炭に頼るより外はないが、オーブンハイヤプレスの、ちょろ〳〵と火を見るような古典氣分に富めるものは、煖める面積が只其附近だけな遺憾がある。置ストーヴとても、煖面積の少いのと、事務的氣分に富むで、居間抔のものとしては落ち着きがない。仍で、同氏は、此處に挿入せる寫眞に在る樣なものを考案されたのである。

斯の寫眞が說明するように、小型な置ストーヴの上部を取り除けて、其上部に三本のパイプを取り附け、是より空氣を流入せしめて、其温められたるものを部室中へ放散する樣になつてゐる。此のエイヤヒーターを附けて、大概六十度位に温められたる空氣は、冷氣と濕氣の新謝代謝をなすとき、件の温められたる空氣は聯絡せる各部室を縫ふて漂へるから、中間よりは遠方が温かく感ずるとのことである。斯くして其聯絡せる各部室二十六疊許の部屋中を、斯の煖爐一つで温め得られるとは、奈何にも理想的である。

わたくしは、纔にその概略を紹介したに過ぎずして、或は却つて迷惑されるような說明となつてゐるかも知れぬが、其點は篤く御斷りして置く。そして、詳細は挿入の寫眞と口繪の平面圖抔によつて御覽になり度い。斯くして出來上つたのは、敷地五百坪に建坪三十坪、延にして六十坪、工費貳百九十圓坪を要したそうである。

わたくしは、終りに、同氏の談片二三を誌して斯の稿を了ることゝしよう。

『斯の家を建てるに就いて、先づ場所の選擇には可成り苦心致しました。最初に阪神沿線を探したのですが、幸ひ格好な場所だと思ふて、其靜な處へ立ちつ邊りの狀況を見てゐると、却々喧しい、間斷なく、氣車や電車抔の響が聞へて來る。仍で、更に阪急沿線を探しました、寶塚の近所から、山本の少し先き抔に餘程適當な場所を見付かつたのですが、遺憾な事には、交通が理想的でない。

『私の考へるには、縱し電車の便があつても、例へば出水の爲に電車の交通が遮斷されたような場合、直ちに氣車の便を藉る、といふような便宜

をも有つてゐなければならぬ。仍で、幸ひ斯の場所を見出したのですが、此處は、電車の外に、半丁許下ると池田驛を控へて汽車の便があり、それでゐて、それ等の音響がちよっとも聞へない極めて閑寂な境地です。』

『場所は東南で、斯様な丘腹斜傾地ですから、縦むば、家が續々出來たにしても、何等眼界を遮る虞れなく、日光の射入は勿論申分ない上、排水は地形自然の作用として充分です。樹木の關係は申すまでもない。まあ、是が私の理想な場所と思ひまして、此處を選びました。』

『元來、私は平地を好みません。云ひ換ゆれば住ひは簡單が嫌ひで、復雜が好きです、隨つて斯様な丘腹の勾配を利用して、でこぼこな家を建てたので、私としては面白いものが出來る、と思ひます。又、地形の關係上地坪も儉約されますから、經濟的にもよい、と考へました。』

『要するに、成るべく工費の掛らない、そして新し味な便宜なものを拵へ度い、といふ理想から斯のようなものを拵へました。建前を日本式又は折衷式といふような事にしては費用も嵩む事ですから、斯の様な様式にしました。尤も、細部は、日本式を餘計に採用することとして遣りました。』

『今一つは、疊の關係ですが、何んとしても、今は私共日本人の凡ゆる方面に於て過渡時代に在るのですから、住居としても疊と絶縁する譯には參りません、仍て、二階は——下から云はゞ三階は全部日本式として疊に致しました。是は、一見矛盾のようですが、友人や緣者や、殊に婦人達がまだ疊好愛者たる限り、餘儀ない次第だと思ひます。斯くして、大体は西洋味ある構造でありますが、私としては、日本式を成るべく其氣分を有たせて西洋化するに努めました。大業に云はゞ、日本建築の進化ですナ、呵々。』

園け行く春色は、殘んの櫻花に濃き影を宿し、晴れ亘る北攝の平野は將に蒼緑の隈取りを畫かむとして、希望に充てる斯の自然の精氣は、凡ゆるものに注がれつゝあり。吾れは變化と創造と希望に富む斯の作物と清談に、意義ある半日を送りたる幸ちを感謝する。

（大正一一、四、一〇）



大阪市に於ける細民階級住宅の現狀と保健狀態（上）

三太郎

題して「大阪市に於ける細民階級住宅」といふも、主として、南區下寺町三丁目俗に八十軒長屋及び新八十軒長屋の一聚落に於けるそれなり。本聚落は、大阪市に於ける細民住居地域として、其包容せる戸口の密度極めて濃厚に、地況亦頗る非衞生的關係に在りて、本地域に於ける調査は、以て大阪市全般に於ける細民階級の住家と保健の關係を窺ひ推知するに難からず。而して、本調査は大阪府衞生課のそれに負ふ處多きと同時に、其調査の全部を此處に揭載するは、到底紙幅の容さゞる處なるが故に、僅に其二三を摘載するに止む。されど、尙ほ是によりて、細民級住宅と保健の狀況を大體識り得べきを信ず。

調査地現住人口と戸數

先づ、戸數に於て、「八十軒長屋」は八十二戸、「新八十軒長屋」は十五、合計九十七戸にして、其人口は、前者六百七人、內男三百三十四人、女二百七十三人、後者は、百十五人、內男五十四人女六十一人、人口總計七百二十二人、內男三百八十八人、女三百三十四人なり。而して、細民階級住宅の特殊な現象として見るべきは、一戸二組以

上の家族を收容せる「群居生活」又は「共棲生活」にして、斯の特徴は、實に、其世帶數に於て見ることを得べし。即ち、本調査區域内の世帶數は、合計二百三世帶にして、之を細別すれば、「八十軒長屋」百六十七世帶、「新八十軒長屋」三十六世帶なり。而して、平均世帶數にすれば、一戸二世帶九に當れり。之を大正九年十二月末即ち今より一ケ年五六ケ月前に於ける大阪市の、現在家屋及世帶數に現はれたる結果の、一戸平均一世帶と二三一戸收容人口平均五人と五九を示せるに比較し世帶に於て其倍數以上、人口に於て、七人四四を示せり。以て、細民階級に於ける密集生活の狀況奈何を推知し得べし。但し、斯くの如く一ケ年餘前に於ける一戸世帶及收容人口數を以て現在に比較することの或は當らざるやも圖り知る可からざるも、先づ其大勢を識るに於て、必ずしも大なる過誤なきを信ずるなり。

その職業關係に於ける瞥見

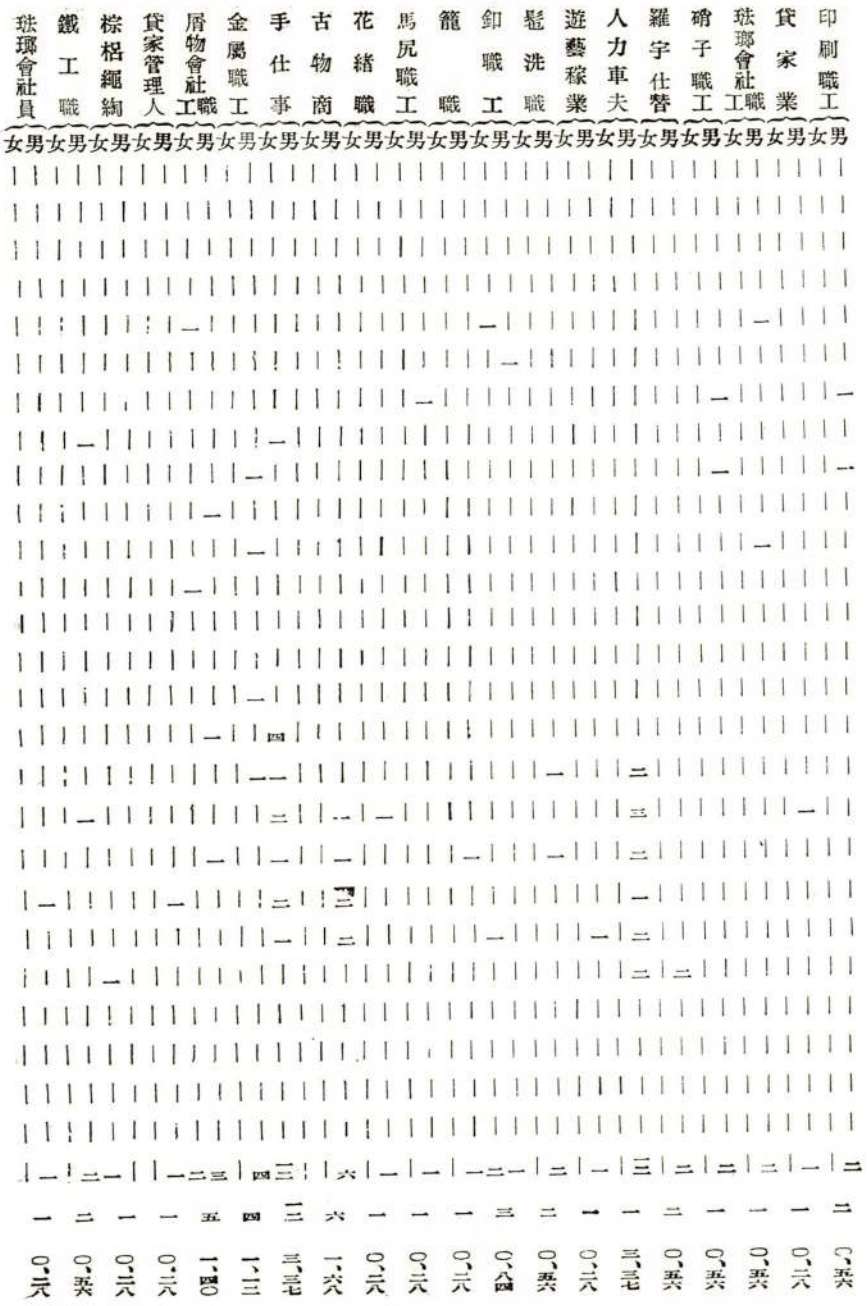
前記人口七百二十二人中、有職業者は其約五割弱、即ち三百五十六人にして、之を男女別とせば、男二百十四名、女百四十二名なり。而して其職業別は、塵芥選別に傭はるゝ者又は所謂紙屑拾ひ（必ずしも紙屑ならず各種の有價物件を拾ひ集むる者）男一割八步、女四割三步、日稼業又は手傳業男二割二步、女一割九步、諸會社の職工男一割九步、女二割九步弱、其他市役所衛生人夫等を多しとす。而して、今それ等の詳細と收入額等を見むため、左に二三の表を揭げて參照に供す。

職業ト體性年齡別

年齡別 / 職業別	手傳業 男	手傳業 女	日稼業 男	日稼業 女	屑物行商 男	屑物行商 女	饂飩屋 男	饂飩屋 女	玩具製造工 男	玩具製造工 女
11	一									
12		一								
13									一	三
14										一
15										二
16										
17										二
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
25—30										
30—35										
35—40										
40—45										
45—50										
50—55										
55—60										
60—65										
65—70										
70—75										
75—80										
計	一	二	一	一	四	四	一	二	二	六

男女計	有職者調査全員に對する%
三	五、六
一	一、〇
五	六、二
八	五、八
五	一、六

職業	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
鍼灸術営業者	二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
力士	一四		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
東西屋人夫	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
洋酒製造職工	七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
市役所人夫	四三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
屑物撰別	三七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
燐寸職工	一二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
葬式人夫	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
燐寸職工	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
屑物撰別	三七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
市役所人夫	四三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
洋酒製造職工	七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
東西屋人夫	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
力士	一四		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
鍼灸術営業者	二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
馬力屋小僧	三、九三		一、九六		一、八四		一、九六		二、七九		二、八四		二、九九		三、〇五		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四	
仲仕業	一四		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
磨砂賣	二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
白粉職工	五		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
花賣	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
料理人	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
煙草專賣局職工	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
市電工夫	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
紙箱製造職工	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
八百屋行商	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
桶屋職	二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
被服裁縫職	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
鋸目立職	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
葬式人夫	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
燐寸職工	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
屑物撰別	三七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
市役所人夫	四三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
洋酒製造職工	七		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
東西屋人夫	三		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
力士	一四		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
鍼灸術営業者	二		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
馬力屋小僧	三、九三		一、九六		一、八四		一、九六		二、七九		二、八四		二、九九		三、〇五		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四		二、八四	


印刷職工
貸家業
琺瑯會社職工
硝子職工
羅宇仕替
人力車夫
遊藝稼業
髭洗職
卸職工
籠職
馬尻職工
花緒職
古物商
手仕事
金屬職工
屑物會社職工
貸家管理人
棕梱繩綯
鐵工職
琺瑯會社員

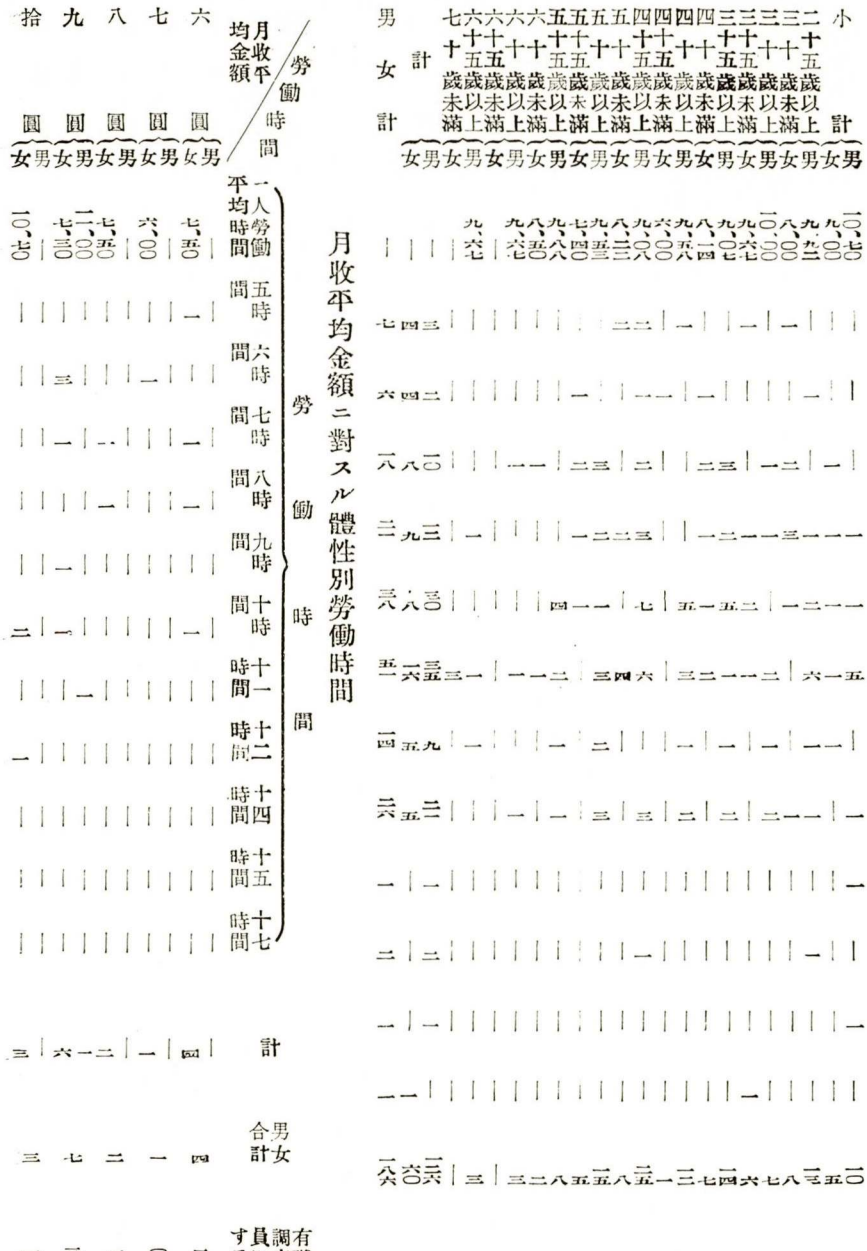
層	飲食店		煮賣屋		按摩業		電話交換手		公會堂監視人		櫛製造職工		繩帶卷職工		鍛冶職		理髮業		電話工夫		指物職		鞄職工		鑄掛職		鍛職工		倡妓		飴職工		灰買		電車車掌		計		職業者百人ニ對スル年齡別比
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
二	二																																			
三	一																																			
六	二																																			
五	三																																			
五	四																																			
四	三																																			
八	四																																			
五	二																																			
五	六																																			
六	一																																			
四	三																																			
四	三																																			
一	一																																			
一	一																																			
一	三																																			
一〇	六																																			
五	二																																			
一三	八																																			
二五	六																																			
二九	六																																			
一〇	二																																			
一三	一五																																			
一三	七																																			
一三	四																																			
一	二																																			
一	一																																			
一四	二																																			
一〇	一

年齢ト體性別勞働時間

勞働時間 / 年齢別

年齢別	男女合計	男女計	男	女	平均勞働時間	五時間	六時間	七時間	八時間	九時間	十時間	十一時間	十二時間	十三時間	十四時間	十五時間	十七時間
十一歳以上十二歳未滿	一	一二	一二	一	六、〇〇九				一		一						
十二歳以上十三歳未滿	二	一三	一一	二	六、〇一七						二						
十三歳以上十四歳未滿	四	一一	五	六	六、〇一七						二						
十四歳以上十五歳未滿	五	一五	一四	一	六、〇一七						一						
十五歳以上十六歳未滿	四	一四	一三	一	六、〇一七						一						
十六歳以上十七歳未滿	五	一二	一二		六、〇一七												
十七歳以上十八歳未滿	五	一二	一二		六、〇一七												
十八歳以上十九歳未滿	四	一一	一一		六、〇一七												
十九歳以上二十歳未滿	二	一三	一二	一	六、〇一七												
二十歳以上二十一歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十一歳以上二十二歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十二歳以上二十三歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十三歳以上二十四歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十四歳以上二十五歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十五歳以上二十六歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十六歳以上二十七歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十七歳以上二十八歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十八歳以上二十九歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十九歳以上三十歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
三十歳以上	一	一二	一二		六、〇一七												
小計	一〇〇	一二一	一一九	二	六、〇八〇		一		一		一						
十一歳以上十二歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
十二歳以上十三歳未滿	二	一三	一一	二	六、〇一七												
十三歳以上十四歳未滿	四	一一	五	六	六、〇一七												
十四歳以上十五歳未滿	五	一五	一四	一	六、〇一七												
十五歳以上十六歳未滿	四	一四	一三	一	六、〇一七												
十六歳以上十七歳未滿	五	一二	一二		六、〇一七												
十七歳以上十八歳未滿	五	一二	一二		六、〇一七												
十八歳以上十九歳未滿	四	一一	一一		六、〇一七												
十九歳以上二十歳未滿	二	一三	一二	一	六、〇一七												
二十歳以上二十一歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十一歳以上二十二歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十二歳以上二十三歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十三歳以上二十四歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十四歳以上二十五歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十五歳以上二十六歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十六歳以上二十七歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十七歳以上二十八歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十八歳以上二十九歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
二十九歳以上三十歳未滿	一	一二	一二		六、〇一七												
三十歳以上	一	一二	一二		六、〇一七												
小計	一〇〇	一二一	一一九	二	六、〇八〇		一		一		一						
男女計	一〇〇	一二一	一一九	二	六、〇八〇		一		一		一						

月收平均金額ニ對スル體性別勞働時間



勞働時間 ＼ 月收平均金額	六圓		七圓		八圓		九圓		拾圓	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
一人勞働平均時間	七、五五		七、五〇	七、三〇	七、五〇	七、五〇	七、三〇	七、三〇	七、五〇	七、三〇
五時間	一									
六時間				三		一				
七時間	一			一						
八時間					一					
九時間				一						
十時間	一									二
十一時間										
十二時間										一
十四時間										
十五時間										
十七時間										
計	四		一	六	二	一	一	三		
男女合計	四		一	七	二		一	三		
有職者調査人員に對する%	二、一八		〇、五四	三、八三	一、〇九		〇、五四	一、六三		

勞働時間 ＼ 月收平均金額	小計		二十五歲以上		三十歲以上三十五歲未滿		三十五歲以上四十歲未滿		四十歲以上四十五歲未滿		四十五歲以上五十歲未滿		五十歲以上五十五歲未滿		五十五歲以上六十歲未滿		六十歲以上六十五歲未滿		六十五歲以上七十歲未滿		七十歲以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
一人勞働平均時間	一〇、七〇		九、〇〇	九、一二	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇七	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	九、〇〇
五時間	一五		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
六時間	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
七時間	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
八時間	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
九時間	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十時間	一一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十一時間	一五		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十二時間	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十四時間	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十五時間	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
十七時間	一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一	
計	一五		一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一
男女合計	一六		一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一
有職者調査人員に對する%	一五		一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一	一一	一

拾貳圓	拾四圓	拾五圓	拾八圓	貳拾圓	貳拾貳圓	貳拾五圓	貳拾八圓	參拾圓	參拾貳圓	參拾五圓	四拾圓	四拾五圓	五拾圓	五拾五圓	六拾圓	六拾五圓	七拾圓	八拾圓	九拾圓
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
九、八〇	一〇、〇〇	八、三〇	八、三〇	一〇、〇〇	八、三〇	一〇、〇〇	八、三〇	九、〇〇	八、三〇	一〇、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、八〇	九、八〇	九、〇〇	九、〇〇	九、六〇	一〇、〇〇	七、〇〇
一		一	一		一		一		一										
一		三	一		一		一		二			一		一					
一		三	三		一		一		三		二		二		二		一		
一		一	一		一		一		一		一		四		三		一		
一		五	二		一		一		一		二		四		五		一		
一		一	一		一		一		一		一		一		一		一		
一		一	一		一		一		一		一		二		二		一		
五	二	一五	一〇	九	八	七	五	三	二	一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二
二、七三	一、〇九	八、一九	五、四六	四、九二	四、三七	三、八三	一、六三	七、一〇	二、一八	三、一七	七、一〇	一四、一〇	七、一〇	一四、一〇	六、五九	六、〇一	七、一〇	一、六三	〇、五四
〇、五四	〇、五四	一、六三	〇、五四	六、五九	六、〇一	七、一〇	一四、一〇	七、一〇	三、一七	二、一八	七、一〇	一、六三	三、八三	四、三七	四、九二	五、四六	八、一九	一、〇九	二、七三

	男	女
百圓	一四、〇〇	
百五拾圓	一五、〇〇	
貳百四拾圓	七、〇〇	
計		

本調査に於ける家屋は平家建二戸、二階建九十四戸、三階一戸にして獨家は平家建及三階建各一戸、他は、三軒長屋二階建九戸、四軒長屋二階建二十二戸、五軒長屋二階建三十戸、七軒長屋二階建十四戸、十軒長屋平家建一戸、二階建十九戸なり。而して、其面積は、間口最小一間、最大四間、就中最も多きは一間半間口二階建四十八戸なり。其奥行は、最小二間半、最大四間半にして最も多きは三間半の五十戸なりとす。建坪は、平家建一戸平均四坪五合、二階建平均五坪五二餘、三階建十八坪平均なり。而して、床上より天井の高さは七尺のもの六十二戸、七尺五寸のもの四十九戸、八尺のもの三十二戸、九尺のもの十六戸、十尺のもの四戸なり。（其他は不詳）斯くて、之等の構造及び空氣の立方容積等により、大阪府當局者の判定したる處によれば、採光狀況に於て、最良九戸、良七十八戸、稍良八戸、普通八十二戸、不良六戸なりと云ふ。更に、換氣狀態如何を見れば、最良八戸、良九十八戸、稍良十三戸、普通四十三戸、不良十六戸なり。斯る事實によつて見れば、其保健狀態は必ずしも危惧するに當らざるが如く思惟せらるゝも、一旦び、其保健上に現はれたる諸般の事實に顧れば、必ずしも然らざるを看取し得べし。記者は、それ等の事實を誌すに先ち尚ほ居住狀況の一つとして、世帶數と一人當疊數とを併せて附記し置かむ。即ち、一戸二組以上の世帶を有するものは二階建のみにして、一組世帶階下四戸、階上十五戸、階上階下に各二組づつを有するもの四十三戸、階下に二組を有するもの二十戸、階上に二組を有するもの七戸、階上一組階下二組を有するもの一戸、階下一組階上二組を有

住家の構造其他の關係

するもの二戸、二組以上となれば、僅に、階下三組世帯二戸、階上四組世帯一戸、階下四組世帯一戸なり。而して、現住者の一人當疊數は、最も狹きもの一疊以下十一戸、最も多きもの五疊半以下二戸にして、就中、一疊半以下二十二戸、二疊以下三十二戸を最多とす。以下稿を更へて、彼等の保健上に現はれたる事實を窺ふことゝせむ。

（つづく）

百萬また百萬と輝く太陽の光の中に在り
て人事一切蚊のうめきにおらずして何ぞ



California 雜記

ひろし

自分の住んでゐる處

桑港灣を横ぎつて、サウサリトに着けば、幾列かの郊外電車が待つてゐる。サンラファエロを終點とするその一つに乘つて卅分餘してボリノス、アヴエといふ郊外住宅地に着く、この地方にある一の學校が、今自分の住んでゐる處である。

サン・アンセルモ、サンフランシスコ、サン・ラファエロ、ボリナス・アヴエなど、ローマン・カトリクと緣故のある地名が多い。昔此地方はスペイン人によつて、開拓せられた關係上、自然からかゝる命名を今日にひいたのではあるが、彼等の勢力が驅逐せられて、アングロサクソンを主とする人種が、主動者の位置に立つてゐる今日もローマン、カトリクの數に於ける勢力は、米國に於て益々旺盛になり增さつてゐる。殊に此カリフオルニアは、その勢力の中心地と言つて長く米國に住んだ一人が、米國將來の問題は一はローマン、カトリク、二はネグロであると言つた。ネグロはその躰力米人を遙に凌駕してゐる唯今日知力がこれに及ばぬだけである。

今自分が暫くの生を托してゐる此あたりは、別莊地、郊外住宅地であつて、快速にして便利な電車、心地よく美麗な大客船をもつて、一時間餘で桑港と連絡をとつてゐる。日曜夜は一時二時頃迄發船してゐる。

桑港は米國西部の重要なる都市として、文明、文化兩方面に急速な發展をなしつゝあるが、東部の諸都市に比べると田舍じみてある。それでも足一歩を始めて此地に踏み入れた時の印象は、幼少の時始めて、上京した時の印象と等しいものがあつた建築物の壯麗廣大、街路の整然として廣く、何

處へ行くも鋪床道路であること、自動車の數が夥しく、縱橫に馳走せる、體格の立派なる、婦人にも生々したる人間らしい體格美、容貌美の者の多いこと。平靜なる心の平衡を動搖せしめられて、自分が小さくなつた樣に感じた、尤も今は大分物慣れて來て、些しも驚きもせず、珍らしくもなくなつただん〳〵歩いてゐる連中の顏も、あきめくらが大部分の樣に思へては來たが。

合理的な住宅

合理的といつても、科學的といつてもいゝ。

ロンドンを始めて見舞つた人の印象には、田舍くさいといふ感があつたと聞いた、市街全體がごすぐらく、夜も暗い。桑港は兎に角大震災後に再建した都市だけあつて美はしくはある。併しそれは新しいといふ丈けでなく、確に石炭を多量に使用する工場のないことにも原因してゐやう此邊の汽車汽船凡て電氣を用ひてゐる。

家庭に這入れば、臺所は凡て立つて料理をし得るやうになつてゐる。鑛は電氣アイオン、部屋の掃除にもバツキウム、クリーナーといふ電氣應用でカーペツトの塵を吸取る機械を用ひてゐる。按摩にも電氣の作用で震動する機械を用ひ斬髪にも電氣應用の機械である

生活の豊なことは、日本などゝ到底比べ物にならぬ。自動車は日本の自轉車位の程度である。日本で廿五圓位の家賃の家に住んでゐる者は田舍ならばフオードの一臺位は持つてゐる。途中手を一つ上げると、オールライトも直ぐに乘せてくれる自動車とピアノと、立派なヴキクトローラ位は下流少し上の階級ならば何處でももつてゐる。自分の住んでゐるヴオリノスは、アヴエは大阪で言へば箕面の少し先き程の距里にある田舍ではあるが、それでも小山の間を綴つて走る道路は悉く鋪床道路である。その間を自動車が縱橫に馳驅してゐる森の中にも電燈があちらこちらと燈つてゐる。米國は自動車全盛であるから、散歩にも自動車を用ひる。散歩のために歩いてゐる人は殆ど此郊外住宅地で見受けぬ。隨つてステツキを用ふる者は、殆どないといつていゝ餘程のハイ、トーンの者か

病人でなければ携へてゐない。

カリフオルニヤの氣候

カリフオルニアは十一月頃から雨期に這入る。それでも十一二月頃は霧に似た細雨が午前中たてこめるだけで、午後は大抵はれやかな日光が笑顔を見せる。一月にはやゝ雨が多くなる、二月には日本の梅雨に似た趣がある。しと〳〵降りつづく雨がつらなる、時に暴風の襲ふこともある。かうして三月上旬でもつて雨期は終を告げる。その以後は絶對に雨が降らぬドラ〳〵、シーズンである。

常夏の國と言はるゝだけあつて、十二月頃も、日本の十月中旬の氣候である。

八九月頃になれば、空氣は乾ききり、澁み切つてドンよりする。木の葉も細塵をのせて白くなるであるから周圍の小山を見ても、喬木などは殆ど見當らぬ。灌木か又は少し高い樹木位である。牧草ばかりが繁つて一木を見ない山が、あちらにもこちらにもある。小山の頂が牧場になつて居るのも尠くない。此邊は海に近く、山、土地の下は大岩石で木が根を張ることを得ないためであると言ふ説もあるが、恐らく降雨の尠いためである。多分カリフオルニヤは、將來は沙漠になるであらう。

初春のヴオリノス、アヴエ

であるから雨期の後の、空氣の清澄草木の生氣のある樣、人の心に新鮮の思を與ふるまたとなく感せられる。

一日寄宿舍（といつても城の如き堂々たるものであつて、日本のそれを聯想してはならぬ）の客間で、グリークのアン、デン、フリユリング（春へ）を友の一人がピアノで彈奏するのを聞いた。曲は清らかな澄んだそしてまだやわらかい初春が靜かに地にはいつる情調をしのばしめる。

ヴオリノス、アヴエの此頃は、その曲の趣によく現れてゐる、日本のボケの花に似て、それよりも美はしいクインス、日本の桃のやうであり、又櫻のやうでもある桃の花が、處々に咲いてゐる。住宅の庭園にはダウフオデイルの黄ろい花バンデ

イのスミレに似た色がちらほら見へる。アカシヤ樹は、黄い細かい花を裝つていたる處に、その高い脊を見せてゐる。アカシヤは餘り美はしくもなく、人の注意も強く牽かぬ。素朴質實な樹であるカリフオルニヤに多い。

ポリノス、アヴエは四方小山に圍まれてゐる。自分は土曜日午後しば〳〵寄宿舍の右側に立つてゐる八九百呎の小山に登る頂は牧草のみで麓から中腹迄に樹木が繁つてゐる。向ふに越して歸るに三時間はかゝる。

山頂に立てば前面には桑港灣の白い水面、ロッス、サンラファエル等の村々町々が小山と森との間に點綴してゐる。灣の彼方にバークレーの町とカリフオルニヤ大學の高塔が見える。その背後にデヤボリスの高山が白雪をいたゞいてひかえてゐる。(雪の降るは此洲では珍しいのである)自分の背後にはタアルパイ山がなだらかな肩をうねらして、直ぐ目の前に聳えてゐる雪のために、登る道が横線直線を引いてはつきり見える。その麓には楕圓形の湖が見える。山は暗綠色の衣に、青磁色の寶玉を裝ほつてゐる。自分の右の別の小山には十數頭の黑、白ぶちの牛が、のどかな春日をあび乍らのそり〳〵と歩いてゐる。

桑港の新聞

桑港には五六種の英字新聞がある、サンフランシスコ、クロニクル、サンフランシスコ、エキザミナー(ハースト系)プレッチン、コール等である、右の中クロニクルが最も公平で、廣く良き階級に讀まれてゐる。エキザミナーはワシントン會議日本代員が上陸した時にも、大きな標題で、『ヂヤップ、デレヂート、カム』と相變らず毒づいてゐた。クロニクルの如きは月曜日十四頁、日曜日には四十頁、四頁の鮮明な寫眞版、四頁のポンチ畫(Funny side と稱す)劇場、音樂、美術、活動寫眞、著書、社交界等各一頁づゝをそへてゐる。その他平素は十八頁である。

在留日本人の新聞には日米、新世界の二新聞があるが、日本の田舍新聞よりまだつまらぬ。

活動寫眞

自分は日本では活動寫眞は殆ど見なかつた。又見ても感心したことは一度も無い。こちらへ來て友人に誘るゝまゝチヨイ〳〵のぞいて見た。つまらぬものもあるが、大躰に於て立派である。到底日本と比べものにならぬ。殊に建物の廣大壯麗な有樣、立派な控室もついてゐる。主となるフィルムの外、日本の一口噺の如きものを寫眞に寫して讀ませる。時事の寫眞を見せる。どの劇場にも大抵パイプオルガンとオーチストラが備つてゐる。映寫の外にパイプオルガンの獨奏、オーゲストラの演奏、ダンスなども見せる。オーゲストラにはオリヂナルな曲を演奏するカリフオルニヤ座の如きもある。兎に角高尙な娛樂場である。日本の活辨士の如きは勿論ない、フヰルムに書いてある文字でわかるので、奏樂を加ふるのみである、映畵の鮮明、比較的空氣の高尙なる、建物の立派なる日本の比でない。先づ米國では最も進步せる藝術は（廣い意味で）活動寫眞、又米人の最も好むのも活動寫眞である。であるから、活動寫眞は何時も滿員であるが、米國一流の沙翁役者たるアンテルが桑港で二週間興行したがそれ程の入りがない、沙翁劇などよりも、活動の方が米人には適してゐる。

音樂

桑港へも一流の音樂家が屢々來る。ヴイクトーア、レコードでばかり聞いてゐた、スウザ、バンドも聞いた。流石に日比谷公園で聞けるものとは段が違ふ。フアラーやエルマンなどは既に第一流の定評を得て多年、今は老境に達してゐる。近頃米國で有名な若手の音樂家は幾人もあるが、その中でもヴアイオリンのハイフエツツはエルマン以上といふ人がある。確にワンダーフルである聲樂ではガリ、クーチでフアラー以上であらう。その聲は驚く可く淸く、驚く程柔軟性をもつてゐる前者は露國人、後者は伊太利人であるが、彼女は今はピアニストであり作曲家である米人と結婚して、米人になつてゐる。卅一才である。スペイン

の父イタリーの母の間にミランに生れ、四才の時伊の有名な作曲家マスカグニから、將來偉大なるピアニストとなると囑望せられてゐた。聲樂の天才は後年に現れたのである。

三浦環も聞く機會を得た。桑港にはオペラ專門の座がないので、大抵市公會堂か（三萬人の座席を有す）又は普通の劇場で開演する。今間もなくシカゴ、オペラ、コムパニーが來て演奏せんとしつゝあるが、場所は公會堂である。三浦はそれより、遙に狹いセンチユリー、シヤーターに出た。二回マダム、バツターフライを見せたが、滿員である。チツケツトは飛ぶ樣に賣れる、確に聲も一流を摩せんとしつゝある。尤も日本人の聲は一種獨特のやはらか味と潤があつて、種類が違ふから西洋人の聲と同日には論ぜられぬが、それでも彼女以上の聲は幾人も米國音樂家中にもある、併し彼女が今日の人氣を得てゐるのはその藝にある。所作は到底白人の企て及ぶ處でない。日本娘の純眞なる戀、母の自殺をも知らで無心に遊ぶその子看客はハンカチーフを取出して鼻をすゝつてゐる日本の情調もよく現はれてゐる。幕間には拍手つゞき〳〵いて、五六回も呼び出される大人氣である。併し彼女にとつて遺憾なことは、アンコールに應じて看客に對する態度である。きざで品がなくて、日本で見たシユーアン、ハインク夫人の如き堂々たる態度がない。餘り高尙でない藝人の態度である。同じ世界的でもこういふ世界的は困るマダム、バツター、フライの筋を知つた者には、マダム、バツター、フライ一本調子で、世界を推し歩いてゐる彼女は、餘り日本國の榮でもない氣がするに違ひない。

自分が桑港に來て間も無く、音樂週が來た・十月卅日から十一月六日迄の一週間市の公會堂で連日連夜樣々の大演奏會が開かれた。各學校でも音樂演奏競技の催もあつた。

學校に於ける音樂教育

桑港に於ける歌劇熱音樂熱は大したもので、善いオペラが來れば二週間の興行毎夜滿員である。昨一年間の間に、桑港に於ける音樂愛好家が、オ

ペラのために費した金額は五十萬弗に達してゐるそれをもつて見ても、歌劇熱の如何に旺なるかが覗はれやう。

併し音樂を好むといふことゝ、音樂を正しく評價するといふことゝは違つてゐやう。勿論大體から見て日本人のオペラに對する鑑賞力と、米人のオペラに對する鑑賞力とは、餘程差異はあらう。難かしい曲を歌ひこなす力のあるなしは別にして、單に音聲からいへば、東京の音樂學校を出て樂壇に立つ程の人達の聲はこちらにはざらにある三流四流のところ、又素人の中にもいくらもある併しそれでも市の現在の親達の音樂に對する評價力は餘り正しくない。それで市では幼稚園からハイ、スクールに至る迄、四萬七千人の兒童少年少女に對し、音樂上の評價力を與ふ可く訓練してゐる。學校にはピイクトローラやピアノを備へつけ彼等をして古典近代の最良の、音樂に親しませ、又世界的のオペラ、作曲家の姓名とその傑作の目錄とを敎へてゐる シカゴ、オペラ、コムパニーのオペラやスコツチ、グランド、オペラ、コムパニーのオペラが市で興行する時には、少年少女等が餘程入場してゐたと新聞は報じてゐる。

今試みに市の音樂愛好家の家庭で育つた少年少女等が、如何なる曲を好んでゐるか、市の學務局に於て取つた目錄をあげてみやう。

一、アントラ●ス●ダンス　グリイク
二、ペルキウス(デヨセリン)　ゴダールト
三、クレイドル●ソング(搖籃歌)　ブラームス
四、フローム●ゼ●ランド●オフ●ゼ●スカイ●ブルウ●ウオター　カドマン
五、ヒユモレスク　デボラツク
六、ラルゴ　ハンデル
七、ミニユーエツト●イン●デー　ベトーベン
八、ビリグリムス●コーラス(タンホイザー)　ワグナー
九、セックス●テツテ(ルギヤ)　ドニツチエリイ
十、スウオン(白鳥)　サンサーン
十一、ツー●エ●ワイルド●ローズ(野へ)　マクドーワエル
十二、カスリーン●マヴールニイン

十三、ロー●ヒヤー●ゼ●ゼンツル●ラーク　アイリツシユ●バラード　ビイショツプ

十四、アン●ビイル●コーラス（イル●トロバトーレ）　ベールテイ

十五、バルカローレ（テールス●オフ●ホフマン）　オツヘンバツハ

十六、ブルウ●ダニーブ（水青きダニーブの流）　ストラウス

十七、イブニング●スター（タンホイザー）　ワグナー

十八、アンゼル●セレネエード　ブラガ

十九、インター●メッツオー（カバレリヤ●ルスチカナ）　マスカグニー

廿、メロデー●イン●エフ（F）ルービニスタイン

廿一、セレネエード　シユーベルト

廿二、クオールテット（リゴレット）　ベルデイ

廿三、スプリング●ソング（春の歌）　ベトーベン

廿四、ドリンク●ツー●ミー●オンリー　ウイズ●ザイン●アイベン　ジョンソン

廿五、ツラウメライ　チヤイコウスキー

廿七、ロスト●コード　ブロクトー●サリバン

廿八、サルウト●ド●アモール　エルガー

廿九、トレアドル●ソング（カルメン）　ビゼー

卅、ハンガリアン●ラプソデイ●ナンバー●ツー　リツツト

日本でも近年歌劇熱は、若き人々の間に非常に旺である。昨年九月下旬、露國のオペラが帝國劇場で開演した時の如き、十二日間の興行毎夜滿員三階四階の平民席は坐る席さへない。毎夜雨の降る夜さへ、傘をさした長蛇の如き切符を買ふ群を見た。

カリフオルニヤの音樂熱は幾分享樂熱が加つてゐる。此點に就ては次便に記さう、カリフオルニヤといはず、米國は甚しく享樂的になつてゐる、若しかゝる傾向を伴ふことなく、眞に敎養の目的で音樂が旺になるは、喜ぶ可きことである。

機械とビジネスと婦人の勢力と實際的應用的キリスト敎以外に、何物の文化をも持たぬ米國も音樂に於ては、革命の結果故國を脫したる露國ポー

ランド等の音樂の天才、イタリーから來た音樂家等によつて、漸次に空氣と歷史とを造られて行くポーランド、共和國第一回の大統領世界第一流のピアニストであるパデレウスキーも今カリフォルニヤで百姓をしてゐる。金は米國の文化にとつて一大勢力を振つてゐる。

斷つておくが右に記した點は、筆者のほんの下手の橫好きから來た觀察や注意の結果で本職は他にあるのです。

肉眼の閉づるに及びて……

……心眼始めて見ゆ。

生活の矛盾

——感想——

吉村美代子

私の知人——實業家——が曾つて私にこんな事を話した事があつた。「私どもの家族で、實際を云ふとこんな大きな家に住ふ必要は少しもないのです。しかし自分の商賣の都合上、私共は必要以外のこんな大きな家を構へて、失費を承知の上で贅澤らしく暮さねばならないのです。矢張り商賣をする者には他の信用が第一ですからね、見榮を張らねばならないんですよ」と云ふのである。この人の家族といふのは夫婦に子供一人、それつきりのものに本宅には女中が五人、庭掃除の爺やが一人、先頃迄は自動車と共に運轉手が車庫の傍に新しい四疊半の家を拵へてもらつて入つてゐたのである。主人の云ふ通りに家も庭も門も大きい。郊外のT——に新築の廣壯な邸宅を構へたその普請等も無論立派なら、斯うした富豪らしい住ひ方に必要な條件も設備も皆備はつてゐる。家の室數等は二十幾つもあるだらう。數奇を凝らした庭園は小公園を成せる程に廣くて美しい。然うして更に海岸のH——と温泉地のI——には別莊も拵へられてあつた。

親子三人の爲めにこれだけの「住む家」が構へられてあるといふ事は成程何と考へても贅澤である否、不必要を通り越して荷厄介かも知れない。その荷厄介なものゝ爲めに數人、或は十數人の雇人が只懸命に座敷を掃くために、拭くために、塵くために、庭の草むしるために、犬の番人に、動いてゐるといふ事は、何といふ安易な「人間の價値」であらう。而も之は主人の事業のためには「必要」

なものだといふ。事業は主人に取つて生き甲斐のある有意義なものであらう。その事業は主人に取つて即ち、彼の個性創造であるからだ。

私は曾つて長柄川のほとりを散歩した時に、乞食(?)小屋を見た。半間に一間程の巾で、じめ〳〵とした土の上に破れ竹をつつ立てゝその周圍と上をむしろで掩ふた丈けだつた。むしろは腐れてゐて蛆が湧きさうだつた。夕方も過ぎて陽は落ち沈んだが、行きづりに覗いたら豆程の蠟燭の灯をともしてゐて暗いむしろの中には三四人も人が居たやうだつた。奥の隅つこに一人が寢てゐる。その體に折り重なるやうな窮屈な格好で物語りに出るやうな怖い老婆が飯を食べてゐる。赤ん坊を抱いてゐる女、そこからひよこり出て來た男の子——と見てから行き過ぎて更にふり返つたら、このむしろ小屋の圍りには肥え太つた二匹の鼠が大膽にも人怖ぢもしないで跋扈してゐるではないか。階級相當の附屬物か、と思つたらいやな氣がした。

共同生活、共同娯樂、——といふ言葉程私に不愉快なものはないのだが、吾々は現代の文明からその窮屈な「カセ」を澤山に強ひられつゝある。一定の文明的な方式の前には、吾々の趣味も嗜好も沒却されなければならないといふのは、彼の一部の人達が唱へるやうに、若し共同炊事、共同住宅やうのものが一般に實現されて、果して人間の生活にはいゝ收穫ばかりがそんなにあるであらうかと思ふのである。それでも猶「うるほひ」を失ひ得なければ幸ひであらう。

私はあの兵隊達が直立不動の姿勢を取つて並んだ時のやうな、一糸亂れずの市營住宅を見る時に私が若し其處へ住はねばならないやうだつたら、と思ふと悲哀を覺える。私には、あの動物園の虎や小鳥達が連想されるからだ。一定の住宅に押し込まれて、人間は動物のやうに文明に飼養されるのが現代なのである。

だと云つて私は共同生活を全然破壞するもので

はない。時と場合と場所とを辨へたい、と思ふのは、私は軍艦を參觀してその完全した設備に感心したものゝ一人である、あの水兵達のやうな規則正しい生活、あの軍艦内のやうな無駄のない場所の應用、隙きのない發明、それは立派な如何にも整つた事務的なものであつた。そして私達にもその事務的な共同生活への奉仕は必要であらうと思つた。而もそれがために、私達の「本來の自然」を虐げ滅ぼす必要はない筈だが——と又思つた。大昔の自然兒は、そんな窮屈な「義務」や不自然な「奉仕」が世の中に在る等とも知らなかつたであらう。

計量家に云はせると、人間の體温に適當した洗湯の温度は攝氏四十度だといふことである。で或人は早速に之を應用して、風呂を沸すのにこの四十度を計つて一家内の人が毎日入つてゐる。この人達は今にきつと、脂肪幾何、蛋白質幾何、含水炭素、燐、石灰幾何々々と分析した食物を更に調合して食べる事であらう。そして自身の體温がまごつくのも、自身の胃袋が困つて美味しくないと云ふのも氣がつかないであらう。或る府立高女でもこの主義方針で生徒達を教へてゐたことを見た正直で熱心で教育事業に一身を捧げきつた校長先生は、場合と時代に依つていつでも變説する「學説」を餘りによく信じすぎてゐたやうだつた。

掃く庭に
雨重き花の
雫哉

和洋兩樣の形式を試みた生活

中井洋紙店重役
鵜飼僊太郎氏夫人
鵜飼浪江

株式會社中井洋紙店重役の鵜飼僊太郎氏夫人浪江さんは美しいヴアイオリニストとして大阪の社交界に知られた方です。上海に御主人の關係になる店があるところから、夫人は大阪の自宅に半年、又上海の店に三ヶ月、といふ風に往來して兩方の生活に和洋兩樣の形式を試みられなければなりませんでした。記者は一日、夫人を訪ねてその感想を伺つてみました。「和洋兩樣の試み」といふのが、所謂普通云ふところの、「和洋折衷」ではなくして、全然、上海に在る時は洋風で、又日本に歸つた時には全くの混り氣なしの日本式でといふのが面白いと思ひます。夫人はその生活し方を交る〳〵にやつて、折角馴染みかけた氣持ちなり習慣なりを又くる〳〵と替へなければならないさうです。「いろ〳〵感じる事もあるやうですけれど」と仰有つてお話しになつたのが次のお話でした。

日本座敷の、粛洒な氣待ちを籠めた客室から、咲きこぼれた櫻と紅葉の色彩美しい風雅な庭の景色を眺めながら、夫人は言葉を切りました。洋裝の時に結ぶ可憐しの髪と、細い、しなやかな體を包んだ名仙の日本着物も、よく取りつくろはれたせいか、可笑しくも不調和にも見えませんでした。（記者）

◆御覽の通り當地はすつかりと家の建て方も古い式の日本風になつてゐませう、私が大阪に歸つた時は老人達と一緒に斯うした生活をするのです。それに就て何か特に目新しく感じる事と仰有るのですか。然うでございますね。……大阪で生れて幼い時から船場の中で育つた私が洋裝をするやう

になつたのも不思議なら、又上海に居てすつかり椅子生活に馴れた私が大阪に來て又疊の上に座るのも何だかそのたんびに新しい感じが致します。

◆上海に行つたのは四年程前からの事ですが、その間二ケ月三ケ月づゝとちよい〳〵參りましたから、もう殆んど彼地の一年も味つたわけなのです氣候などちつとも内地と變らないやうでございますね。凌ぎようございます。それよりももつと春秋のいゝ氣候は日本よりも反つて永いやうですからいゝ時候が樂しめるやうです。只夏期は惡い流行病等熾んなのがいやですけれど……。何しろ下級支那人の衛生思想などは全くなつてゐませんものね。

◆上海に居て不自由だと思ふ事はありません。日本人は殆んど日本人の習慣によつて生活する事も不自由ではありませんし、食物だつて豊富です。大抵のものは日本から取り寄せたものも賣つてゐますし、又彼地特有の美味しいものもございますそれに日本でしか得られないものも無かつたりしますけれど、その代り又彼地でしか得られないものが在るのですから結局同じことなんでございますね。それに日常の物貨は本當に安價うございます。何しろ一日六錢あれば、支那人の苦力等は結構生活が出來るといふのですからね。

◆彼地での日本人の生活樣式は樣々でございます家屋等も洋館と支那家屋と混つてゐますけれど、純然の日本家屋といふものは市内にはありません建てられない規則になつてゐるさうです。で日本人はそれ等の内部を多少日本式に造り替えて疊を敷いたり等してゐるやうでございます。

◆私はすつかりの洋館に住つてをります。只店員達の爲めに寢む場所だけ室の眞中に幾枚か疊を敷いた所がありますけれど、私自身は洋風の生活がらくに出來るやうに思ひます。何しろ動くには椅子生活の方がずつと便利なのです。仕事をするにも、體と働かすにも、少しも臆却でありません。

◆それに寢臺は日本風の蒲團よりも確かに宜しうございますね。私は彼方で暫く病氣をしましたがその時は確かに高い寢臺の有難さを感じました。人々が見舞に來てくれても、用事を達してくれて

も、頗はしく頭に響くことがありませんでした。

◆でも、只不便に思ひましたのは着物を着る時なのです。洋裝の時は少しもそんなに思ひませんでしたが、日本キモノの時は困りました。何しろ長い着物の裾や帶を床に引きづるのですから汚れてなりません。それで私は思ひつきでその時は疊代りに「ゴザ」を敷く事に致しました。普斷はそれはクル〳〵と卷いて置くのです。

◆私は暫く座る事を止してゐて、さて日本に歸つた時に今度の疊の生活を致しますと全く足が痛くてなりません。なか〳〵お行儀よく少し永い時間はとても座れないのです。それで私は考へました日本人は永い期間の習慣で少しも座る事を苦痛にも何も思つてゐませんけれど、現に椅子の生活にはすぐ馴れるものが、さて座るとなるとそれがどんなに困難であるかを感じるのです。私は、日本人は本當に不自然な永い〳〵間の「苦行」を續けて來たものだなと思ふのです。——然う之ふと老人などは、お前等はまだ若いからだ、年とると矢張り座ることのどんなに有難いかゝ分るから、と申しますけれど、さあどうでございませうね。私もその年になつてみなければ……

◆上海での氣持ちのいゝ事は道路の手入れの行屆いたことでした。矢張り英國官憲の統治の下に成される事でせうと思ひますが、あれだけは、あゝした公共的な事になると、何うしてもまだ〳〵日本人の思想は頑固に幼いと思ひます。彼地では、雨の日でも草履で外が歩ける程に道がきれいでした。それに、道路の修繕は、始終やつてゐます。それが部分的にも壞れてからといふやうな事はありません。まだ少しも損じてゐない處でも、いつもあの大きな石の重しでゴロ〳〵と路を固めてゐるのです。私が日本で洋裝する時に、靴の汚れる事が本當にいやに思ふことです。

◆殖民地での生活は、又何かと內地とは趣きが變つてゐるかもしれません。精神的には、萬事に大變氣樂で呑氣に出來る事が一層ハツキリと感じられるやうです。日本人の惡癖だと思はれるやうなコセ〳〵した事もあちらではありません。お互ひに故國を離れて來たといふ他人同志の親しみと、

それに萬事が新しく創造的で、因襲とか習慣とかは自然、顔を出す機會が尠いためでせう。簡單と云へば非常に簡略な生活振りも出來る筈です。新しいことゝか、生活の改善とか云ふ事には、思ひ切つて遠慮なく自分の思想の發揮出來るのも愉快です。それだけ又他に欠陷のある場合もあるやうですけれど、大體に於て呑氣に、ざつくばらんである事は私達の共鳴も出來るところです。

◆「古い」とか「もの丶錆び」とかは然うした處では味はゝれません。例へば品物一つ求めるのにでも總べて自分の働きで案外面白い求め方が出來るのです。例へば、家具でも西洋人の經營する店では立派なだけに値も高いのです。そんなのは、支那人を使つて安い工賃で出來上つた家具——少しも前記の家具と變らないやうな形のものが、支那人の店では大變安く得られますから、少し自分の趣味なり、考へを働かせれば案外面白い暮し方も出來ませう。

◆私は兩方の土地を往來してゐますと、つい春も秋も大變短い氣持ちで暮してしまひます。花の頃大阪を出て、青葉の頃に歸りますと、前の印象がハツキリと頭に泌みてゐるだけ、何か變につまゝれたやうな氣がしてなりません。でもその度毎に私の感情は新しくされますので、いつも晴れやかな思ひを抱くことが出來るのです。そして、溜つてゐる兩方の家の仕事も、一層忙しく働いて片づけるのです。普通なら、家庭の中にのみ閉ぢ籠つてゐるでせう私が、こんなですから、日本の家庭婦人がせめて時々旅行でも氣輕に出來る習慣になりましたら、もつと暗い表情も明るくなりませうね。

雨を見るために
植えたる槇一本



會合

○慨覽會出品委員會

△日　時　三月二十五日午後五時—九時
△會　場　協會會議室
△出席者　片岡、有山、谷口、野呂、竹腰、辰巳、宗、山中、藪、樋口、大林、竹中、葛野、波江、小笠原、吉木、大谷（書記）
△議　事　一、本會委員長に宗兵藏氏を選定す
二、左記諸件に付協議す
住宅實物出品に關する件、史料參考品出品に關する件、美術工藝品出品に關する件
三、部會開會に關する協定

○法政委員會

△日　時　三月二十七日午後五時—八時
△會　場　協會會議室
△出席者　舟橋、吉木、渡邊、福永、島田、森本、三谷（書記）、清川（書記）
△議　事　前回委員會に引續き建築工事請負契約書及同規程の件に付審議す

○第一部（實物住宅）出品委員會

△日　時　三月二十九日午後一時—三時
△會　場　大阪倶樂部
△出席者　片岡、宗、大林、山脇、德政、葛野、波江、小笠原
△議　事　第一部長として葛野壯一郎氏を推選決定し實物住宅敷地及出品勸誘の件に付協議す

○博覽會評議員會

△日　時　三月三十日午後五時三十分—八時三十分
△會　場　大江ビルデング第九號室
△出席者　田中、山本、喜多川、野村、本野、野呂、竹腰、內藤、錢高、有山、鴻池、伊藤、橋本、須賀、飯田、大原、佐藤、片岡、葛野、波江、小笠原、吉木、松本、西谷（書記）、大谷（書記）
△記　事　片岡會長より本會開催の主旨を

說明し一場の挨拶あり理事長及幹事より博覽會事業經過報告をなし博覽會殘餘に付協議決定する處ありたり

○第五部（一般建築材料及器具類）出品委員會

△日　時　四月五日午後五時卅分―九時
△會　場　本協會會議室
△出席者　谷口、中川、久保田、舟橋、布袋、有山、波江、吉木、西谷（書記）、大谷（書記）
△議　事　幹事より提出の出陳表に付協議可決し各出品者名簿を製り各委員に配付し勸誘に着手することに決す

○理事會

△日　時　四月六日午後五時卅分―七時
△會　場　本協會會議室
△出席者　吉木、舟橋、内藤、野呂、中西
西谷（書記）
△議　事　一、大阪計量博覽會出品に　する報告及第二回講習會經過報告
二、細則變更通信決議の件三、關稅改正に關する陳情書の件四、第三回懸賞圖案審査員報酬の件等協議決定す

○博覽會幹事會

△日　時　四月六日午後七時―八時三十分
△會　場　本協會會議室
△出席者　波江、舟橋、吉木、西谷（書記）
大谷（書記）
△議　事　一、敷地契約調印の件、總裁後藤男爵に確定の件、評議員會、各部出品委員會狀況、會場設備の件、等の報告
二、本會資金準備に關する件、博覽會本館建設の件等に付協議せり

○懸賞圖案審査委員、理事、幹事、協議會

△日　時　四月十四日午後六時―九時五十分
△會　場　本協會會議室
△出席者　片岡、宗、設樂、野呂、竹腰、葛野、波江、小笠原、西谷（書記）、山田（書記）
△記　事　ポスター圖案及協會出品の實物住宅設計圖に關し種々協議ありたり

○第一部（實物住宅）出品委員會

△日　時　四月十五日正午―二時
△會　場　大阪倶樂部
△出席者　片岡、宗、大林、山脇、波江、小笠原
△記　事　出品住宅勸誘其他種々協議ありたり

○第二回講習會慰勞招待會

△日　時　四月十七日午後五時三十分―八時卅分
△會　場　大江ビルデング内大洋軒
△出席者　杉田、本多、增田、横濱、内藤西谷（書記）、清川（書記）
△記　事　協會會議室に於て講習會に付時余會談の後晩餐を共にし談笑裡

に散會せり

○春季大會並歡迎會

△日　時　四月十八日午後五時卅分―九時卅分

△會　場　大江ビルデング大集會室

△出席者

（名譽贊助員）今西、金澤、岡、

（招待者）大林

（會員）藤井、中川、福永、森本、宮本、木村、森、波江、坪井、松本、宗、長澤、吉井、山脇、園部、鈴木、松井、佐藤、河村、木子、德政、日高、谷、小川、葛野、小松、土居原、澁谷、安井、平塚

（終身贊助員）森下、田中、鴻池、作山、久保田、橋本、淺沼、錢高、竹中、長瀨、細原、井上、布袋、

（特別贊助員）藤田、谷口、萩原、代正田、村井、東松、中原、吉田

（普通贊助員）竹内、吉岡、倉崎、辻井野村、藤村、山田

（理事）横濱、野呂、瀨戸、内藤、吉木

△記　事

横濱理事長開會を宣し各員食卓につき宴酣にして横濱理事長副會頭に代り開會の挨拶竝新歸朝者歡迎の辭を述らる

一、新歸朝者大林賢四郎氏立つて謝辭竝米國に於ける土木建築に關する視察談ありたり

一、次に名譽贊助員今西林三郎氏、會員宗兵藏氏、終身贊助員作山義彌氏、波江悌夫氏等の食卓演說あり多數の出席者にして盛會裡に各自歡を盡し無事散會せり

會務

四月一日　三月廿二日開會の第二回講習會は本日を以て終了閉會せり聽講者總員百五十三名にして豫期以上の成績を收め得たるは洵に欣幸の次第なり

四月五日　住宅改造博覽會事務員三谷長造氏は家事都合を以て辭任し其後任として

四月十三日山田靜吾氏就任せり

○住所移轉

小島榮二君　東京市外西巢鴨町堀の內一二

八木藤方

井川須一君　大阪市北區曾根崎上四丁目二六六赤地近市方

黑田竹二君　岡山市第十七師團經理部

廣瀨　恭君　東京府下蒲田村街園三三五

片岡長參君　岐阜縣惠那郡大井町大同電力株式會社大井出張所

伊東武夫君　名古屋市中區西新町二丁目五千代田館方

渡　寶幸君　京都市下京區東洞院錦小路角十五銀行京都支店內

內浦寅吉君　大阪市北區玉江町二丁目五十七番屋敷西原衛生工業所大阪支店內

安藤伊右衛門君　高知市江ノ口東小川淵

中村塚治郎君　東成郡天王寺村字天王寺二〇一七ノ一府官舍第四號

櫻井謙二郎君　中河內郡布施村字菱屋西加護谷祐太郎君　東京市外代々木山谷二〇〇番東京市役所建築課

村井季四郎君　大阪府下豐能郡岡町寶通一丁目百六十九號地

中川　將君　高松市宮脇町七九七番地文部

省建築課高松出張所

藤木賢太郎君　大阪市南區櫻川町二丁目一

○八七土木建築請負業森組事務所

中村與資平君　京城蓬萊町四丁目二三一

竹中藤右衛門君　神戸市江戸町元居留地九八

○寄贈圖書

住宅　四號　住宅改良會
建築雜誌　三號　建築學會
材木新聞　每號　同　社
金屬工業新聞　每號　同　社
經濟資料　三號　東亞經濟調査會
都市公論　四號　都市研究會
建築世界　四號　同　社
通商彙報　四號　大阪府立商品陳列所
工業評論　四號　工業評論社
帝國鐵道協會々報　四號　同　協會
建築畫報　四號　同　社
電氣評論　四號　同　社
通俗衛生　四號　大阪府衛生會
工業之大日本　四號　工業之日本社
商工時報　一號　大阪市役所商工課
家のしるべ　四號　家のしるべ社
繪畫通信展覽會時報　帝國美術協會
電氣學會雜誌　三號　同　學會
工業の友　三號　工手學校
滿洲建築協會雜誌　三號　同　協會
新住宅　三號　洪洋社
建築業協會々報　二號　同　協會
建築の普及　二號　帝國工業教育會

□

□

□

役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　小笠原　鈔
理事　横濱　勉（理事長）
理事　吉木　久吉
理事　竹腰　健三（編輯）
理事　中西　甚作（編輯）
理事　内藤　太郎（主記）
理事　野呂良四郎（編輯）
理事　松本　禹象
理事　舟橋　喜一
理事瀬戸文吾（主計）
書記
（編輯主任）江村　郊邨
（庶務）西谷　節
（庶務）清川　伊佐

會員	二二九	會員（地方）	七九
名譽賛助員	七〇	終身賛助員	五二
特別賛助員	一八	普通賛助員	三七一
合計（四月二十日現在）			八一九

住宅改良臨時博覽會部

幹事長　葛野壯一郎
幹事　波江悌夫
幹事　小笠原鈔
書記　西谷節
書記　山崎萬壽夫
事務員　大谷政藏

本誌及廣告料定價表

本誌			
册數	定價	郵稅	
一册	金五拾錢	貳錢	
十二册	六圓	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正十一年四月三十日印刷
大正十一年五月一日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目廿一番地
印刷人
印刷所　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第五集　第五号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
山崎建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
木村組
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
関西ステンドグラス製作場
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋商店
吉田鹿之助本店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組スティンド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所

大阪煖房商会
大阪電気商会
インペルメアビリット
東洋水道木管
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
実野商会
日本トラスコン鋼材
高田商会銀座販売店
住友製銅販売店
住友東京販売店

共同建材製作所
日本工剤
ヒーリング商会
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業